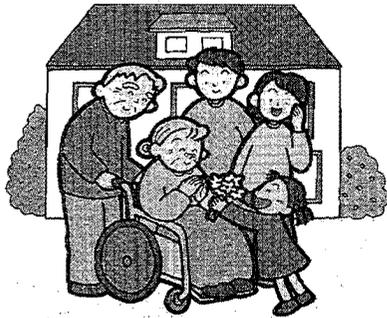


3-2. 神戸会場

平成24年3月6日(火)

兵庫県における 認知症支援体制の推進について

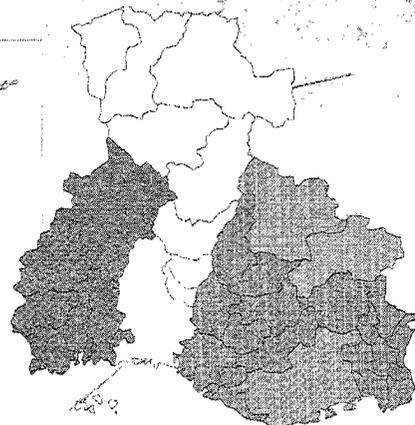


兵庫県健康福祉部
社会福祉局
高齢社会課高年保健福祉係

1

兵庫県の概要

兵庫県は、北と南に海があり、日本のほぼ真ん中に位置しています。



人口:約559万人、高齢化率:22.6%
(平成23年2月1日現在)

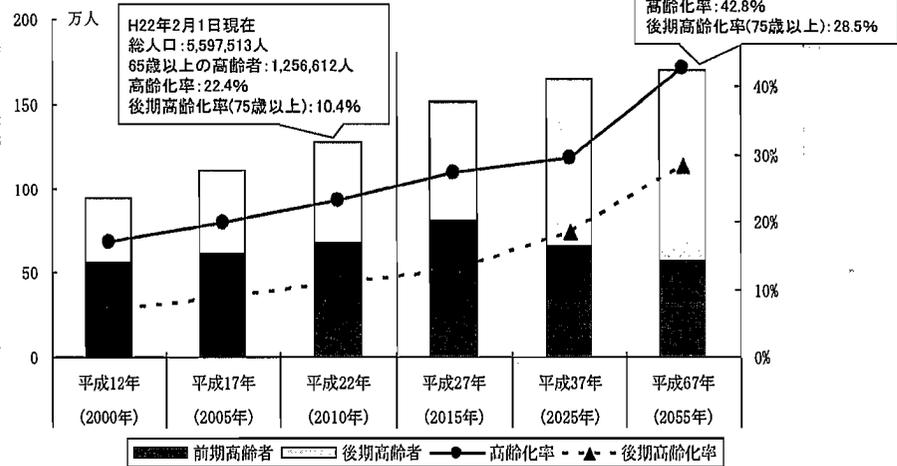
管内:41市町、二次医療圏:10圏域

人口:約154万人の市～約1万2千人の町
高齢化率:15.8～34%と地域差がある



2

兵庫県の高齢化の見通し

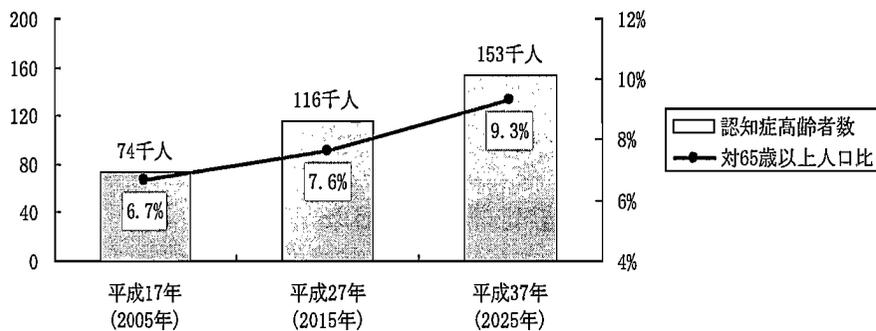


- * 総人口は減少、高齢者人口は増加
- * 高齢者の増加に伴い、要介護・要支援者が増加。
- * 「高齢者のみ世帯」「単身世帯」の増加

兵庫県における認知症高齢者数の推移



■ 何らかの介護・支援が必要な認知症高齢者数
平成17年: 7万4千人 → 平成37年: 15万3千人



※平成20年5月に推計した兵庫県の将来推計人口と、厚生労働省老健局長の私的研究会である高齢者介護研究会が平成15年度にとりまとめた報告書「2015年の高齢者介護」で示された全国の認知症高齢者の出現率を用いて、県内の何らかの介護・支援が必要な認知症高齢者数を推計

兵庫県の認知症支援体制の推進

(H21～23年度)

ビジョン

「認知症になっても安心して暮らせるまちへ」

＜ 認知症の人と家族を地域で支える ＞

- 1 医療対策の充実
- 2 地域連携体制の強化
- 3 認知症ケアの人材の育成
- 4 若年性認知症対策の推進

認知症の人が、住み慣れた地域で尊厳を保ち、安心して住み続けられる地域



誰もが暮らしやすいまち

5

これまでの取組経緯

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
医療対策の充実	認知症疾患医療センターの整備(21年度～)		
	認知症サポート医の養成(17年度～)		
	かかりつけ医認知症対応力向上研修(18年度～)		
			認知症医療ネットワーク研修(23年度)
地域連携体制の強化	認知症対応ネットワーク構築事業(モデル事業) 19・20年度:神戸市、但馬 21年度:加古川市、市川町 22年度:川西市、加東市		県事業から、市町事業(41市町が実施対象) 23年度:10市町実施
	認知症支援推進会議(20～22年度)		認知症施策推進会議(23年度～)
	認知症医療と地域連携強化連絡会議(21・22年度)		市町村認知症施策総合推進事業連絡会議
	認知症地域ネットワーク構築研修(21年度～)		
	認知症・高齢者専門相談(18年度～ 23年度名称変更)		
	認知症を知るキャンペーン(22年度～)		

6

これまでの取組経緯

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
認知症ケア人材の育成	キャラバン・メイト養成研修(18年度～)		
	認知症地域活動実践力アップ研修(21年度～)		
	認知症介護研修(認知症介護実践者等養成事業)		
	市民後見人養成事業検討会議(21年度～)		
	市民後見人養成研修(22年度～)		市民後見人養成・活動支援の手引きの作成
若年性認知症対策の推進	若年性認知症自立支援ネットワーク会議(20年度～)		
	若年性認知症シンポジウム(22年度～) ※支援者の研修		若年性認知症 当事者支援モデル事業

7

1 医療対策の充実

① 認知症疾患医療センター運営事業(障害福祉課所管)

早期の的確な診断や適切な医療の提供に繋ぐための中核となる認知症疾患医療センターを設置
(平成24年2月現在)

圏域	病院名	圏域	病院名
神戸	神戸大学医学部付属病院	中播磨	県立姫路循環器病センター
阪神南	兵庫医科大学病院	西播磨	県立リハビリテーション 西播磨病院
阪神北	(独)国立病院機構 兵庫中央病院	但馬	公立豊岡病院組合立 豊岡病院
東播磨	加古川西市民病院 (平成24年10月～)	丹波	特別医療法人 敬愛会大塚病院
北播磨	加東市民病院 (平成24年4月～)	淡路	県立淡路病院

8

② 認知症地域医療支援事業

ア 認知症サポート医の養成

認知症医療体制の中核的な役割、かかりつけ医への助言等の支援を行う認知症サポート医を養成

■認知症サポート医の養成数 ※ 平成23年度:兵庫県11名、神戸市3名養成予定

年度	17	18	19	20	21	22	計
県養成	1	5	4	2	14	23	49
神戸市養成	1	1	1	2	3	2	10
合計	2	6	5	4	17	25	59

イ かかりつけ医認知症対応力向上研修

認知症診断の早期発見・早期対応に繋がるよう、地域のかかりつけ医に対し、研修を実施

■かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者数 (平成23年4月末現在)

神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	合計
332	66	22	35	22	49	40	6	25	37	634

9

2 地域連携体制の強化

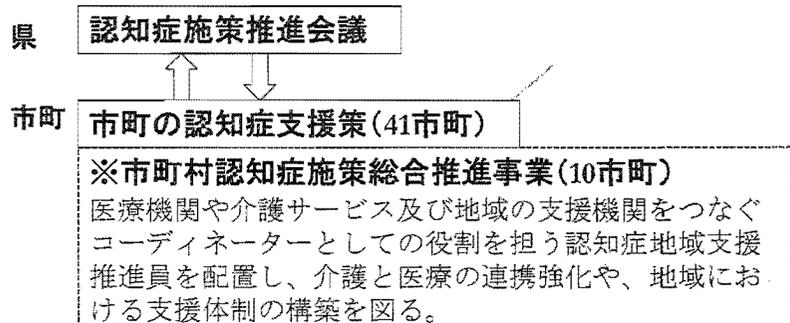
① 認知症地域支援施策推進事業

ア 認知症施策推進会議の開催

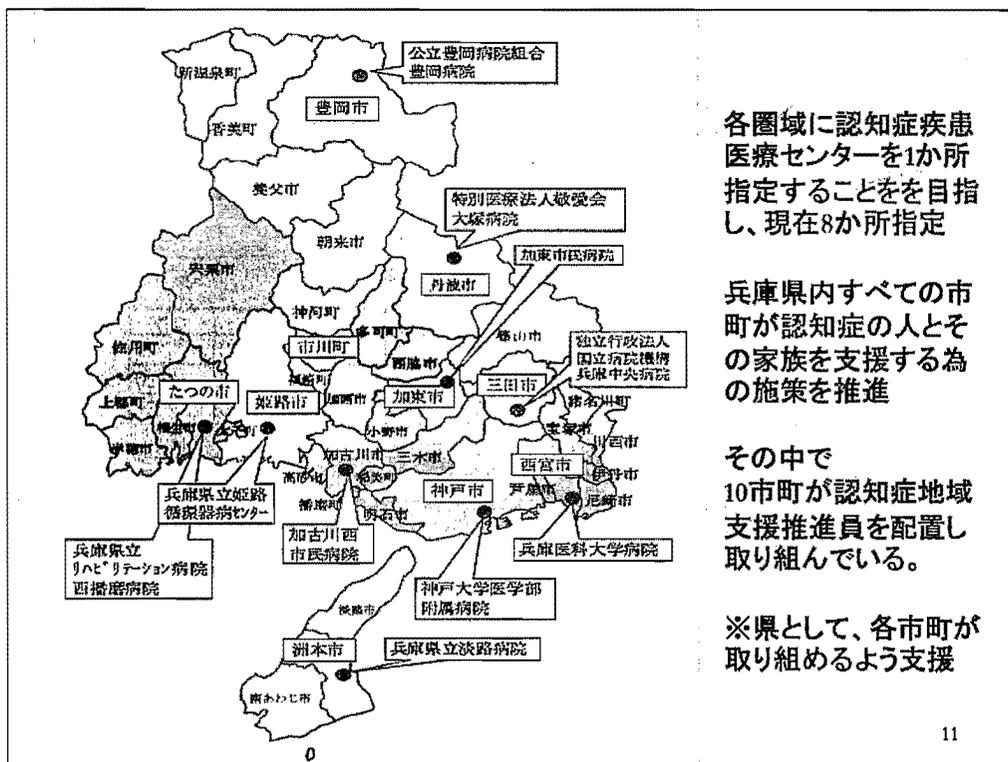
認知症支援体制の推進における、現状・課題、支援方策を検討

※市町の取組を支援する方策の検討

(構成員)医師会(認知症サポート医含む)、認知症疾患医療センター、市町、地域包括支援センター等



10



各圏域に認知症疾患医療センターを1か所指定することをを目指し、現在8か所指定

兵庫県内すべての市町が認知症の人とその家族を支援する為の施策を推進

その中で10市町が認知症地域支援推進員を配置し取り組んでいる。

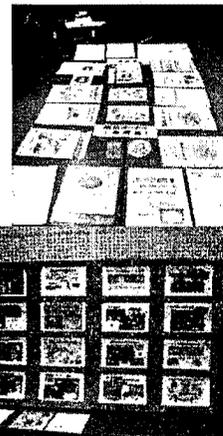
※県として、各市町が取り組めるよう支援

イ 認知症地域ネットワーク構築研修

(年2回: 10/27・28)

認知症に対する医療、ケア及び認知症ネットワーク等に関する先進事例を題材とした研修を、市町担当者や地域包括支援センター職員等を対象に実施

- ※ 事前課題(地域の課題と推進方策)
→自分の事として考えてもらう
- ※ 研修会場に認知症の人と家族を支えるための活動状況等を紹介する展示コーナーを設置
→他地域の取組を知る機会を増やす
- ※ 地域の認知症支援体制づくり関係者も対象
→市町の取組の応援者を増やす



ウ 認知症医療ネットワーク研修(年1回: 3/8)

認知症医療連携の実践を学び、各地域での取り組みの推進を図る

- ※ 県医師会と共催
- ※ 医師対象研修を企画し、認知症医療関係者も出席可能
→認知症の医療連携の現状を知り、各地域での認知症の医療・介護の連携に反映させてもらう

エ 認知症を知るキャンペーン

(年2回:9/10、10/15・16)

県民に広く認知症の理解促進を図るため、「認知症の人と家族の会」に委託して、相談会やパネル展示を実施

アルツハイマーデー
街頭行動



② 認知症高齢者専門相談 兵庫県民総合相談センター 078-360-8477

窓 口		相談日	相談時間
認知症・高齢者 専門相談	家族の会会員による相談	月・火・金曜	10:00~12:00
	看護師等による相談	水・木曜	13:00~16:00

13

3 認知症ケアの人材の育成

① 認知症人材養成事業

ア キャラバン・メイトの養成(年3回:8/2、9/2、12/2)

「認知症サポーター養成講座」の講師となるキャラバン・メイト養成

イ 認知症地域活動実践力アップ研修(年3回:11/9、11/30、2/1)

実践事例を題材に、キャラバン・メイトの資質向上を図る

ウ 認知症介護研修

介護従事者の資質の向上を図るため、各種研修を実施

- ・認知症介護指導者養成研修
 - ・認知症実践リーダー研修
 - ・認知症実践者研修 等
- ↑
ステップアップ

※ 研修受講要件あり



14

② 市民後見人の養成・支援体制整備事業

認知症に対して、主として身上監護を担う市民後見人の養成を図るとともに、市町等における活用に向けた仕組みづくりを推進する。

ア 市民後見人養成研修(年1回:全11日63時間)

市民後見人の養成を県社会福祉協議会に委託して実施。

イ 市民後見人(候補者)養成事業検討会議(年4回)

市民後見人養成研修及び市町における支援体制の検証を行い、市民後見人養成・活動支援マニュアルの内容について検討する。

ウ 市民後見人養成・活動支援の

手引き作成

※ 市町、地域包括支援センター等に配布

エ 権利擁護人材フォーラム

(年2回:10/20、3/23)

権利擁護に関する普及・啓発を
県社会福祉協議会に委託して開催

市民後見人養成・活動支援の手引き

平成24年3月
兵庫県

15

4 若年性認知症対策の推進

① 若年性認知症対策総合推進事業

ア 若年性認知症自立支援ネットワーク 会議

若年性認知症支援体制の現状と課題、支援
方策を検討して効果的な支援体制の構築を図る。

イ 若年性認知症シンポジウム(年1回:9/27)

若年性認知症支援ハンドブックを活用し、若年性
認知症の理解を図り、支援方法を学ぶ研修

※若年性認知症支援ハンドブック:県HP掲載



② 若年性認知症当事者支援モデル事業

若年性認知症者及びその家族のもとに家族の会会員を派遣し
ピアサポートを行うとともに、県内の若年性認知症支援の実態把握
及び当事者とその家族間のネットワークの構築を図る。

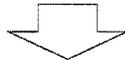
若年性認知症コールセンター 0800-100-2707
<月～土 10:00～15:00>

16

これからの推進に向けて

ビジョン「認知症になっても安心して暮らせるまちへ」

〈現在〉全市町が何らかの認知症支援策実施



〈今後〉第5期介護保険事業(支援)計画に記載し、
計画的に推進

これまでの主な記載事項

- 日常生活圏域の設定
- 介護サービスの種類ごとの見込み
- 施設の必要利用定員
- 地域支援事業

【新たな記載内容】

重点的に取り組むことが望ましい事項

- 高齢者の居住に係る施策との連携
- 医療との連携
- 認知症支援策の充実
- 生活支援サービス

※第5期介護保険事業(支援)計画の策定に係る全国会議(平成23年7月11日)

17

平成24年度～

医療と介護の連携による認知症の人の
暮らしを支える

「認知症になっても安心して暮らせるまちへ」

〈 認知症の人と家族を地域で支える 〉

1 認知症予防の推進(新規)

2 医療対策の充実(拡充)

3 地域連携体制の強化

4 認知症ケアの人材の育成(拡充)

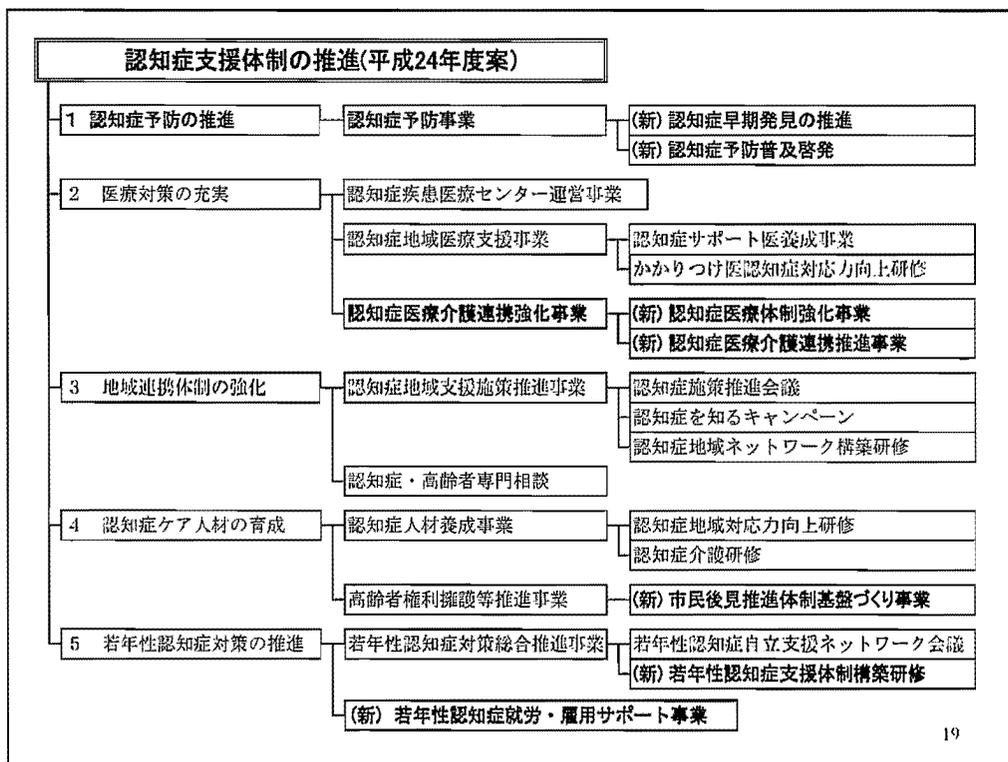
5 若年性認知症対策の推進(拡充)

認知症の人が、住み慣れた地域で尊厳を保ち、安心して住み続けられる地域



誰もが暮らしやすいまち

18



1 認知症予防の推進

① (新) 認知症予防事業

認知症予防、早期発見、早期受診を図るため、認知症チェックシート
の配布、認知症タッチパネルを用いた予防教室の開催等を行う

ア (新) 認知症早期発見の推進

- ・ 認知症チェックシートの作成、県ホームページへの掲載
- ・ 定期健診を利用した認知症チェックの実施(モデル事業)

イ (新) 認知症予防普及啓発

- ・ 認知症予防教室の開催(50回)
- ・ 認知症タッチパネルの設置
設置場所: 県民局、県庁 等
- ・ 認知症予防啓発キャンペーン(9月)



生活習慣病を予防
することが、認知症予
防にもつながります。

2 医療対策の充実

- ① 認知症疾患医療センター運営事業（障害福祉課所管）
- ② 認知症地域医療支援事業
- ③（新）認知症医療介護連携強化事業

ア（新）認知症医療体制強化事業

認知症に対応する医療機関を兵庫県認知症対応医療機関として登録し、県民及び関係機関へ周知を図ることにより、認知症の診断、治療が適切に受けられる体制を整備する。

イ（新）認知症医療介護連携推進事業

認知症ケアにおいて、専門医とかかりつけ医との連携に加えて介護との連携を図ることにより、継続的包括的に一環した支援を行うため情報を共有する「兵庫式認知症医療介護連携パス」を作成する。

また、25年度以降、全県での普及をめざし、「兵庫式認知症医療介護連携パス」をモデル地域において試行する。

21

4 認知症ケアの人材の育成

- ① 認知症人材養成事業
- ②（新）市民後見推進体制基盤づくり事業

ア（新）市民後見推進体制基盤づくり研修（年1回）

各市町において市民後見人の養成・活動支援が継続的に展開できるように研修を実施

イ（新）市民後見推進体制基盤づくり会議（年3回）

市民後見推進体制の整備を行う予定の市町を対象に、市町間での情報交換及び専門的アドバイス等、市民後見推進体制の整備が図られるよう会議を開催



22

5 若年性認知症対策の推進

①若年性認知症対策総合推進事業

ア 若年性認知症自立支援ネットワーク会議

イ (新)若年性認知症支援体制構築研修

各市町において若年性認知症支援が効果的かつ継続的に提供される体制の整備を目指すことを目的に開催

② (新)若年性認知症就労・雇用サポート事業

ア (新)就労・雇用支援アドバイザーの配置

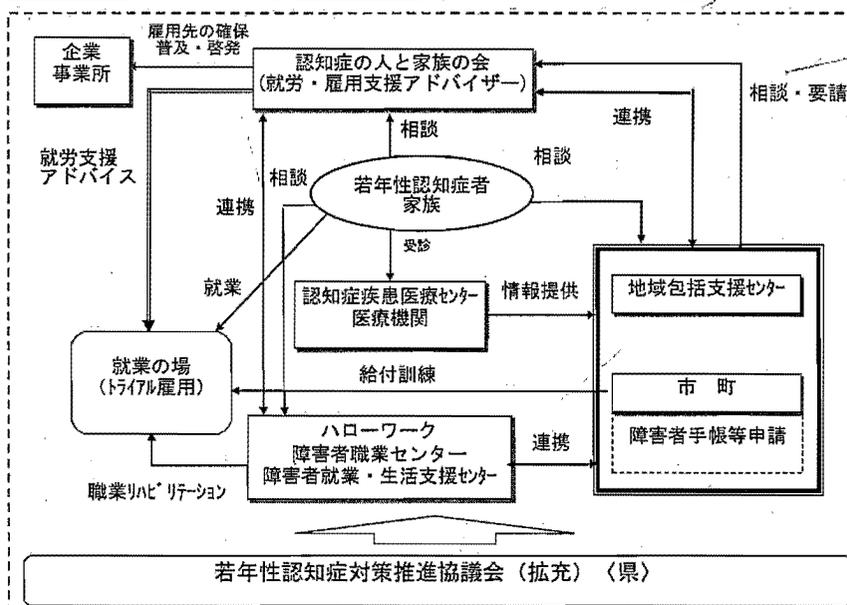
若年性認知症の人の「働くこと」に関する相談、職域等への啓発活動等を実施する就労・雇用支援アドバイザーを配置

イ (新)若年性認知症対策推進協議会の設置(年2回)

就労支援体制の整備のあり方について、医療・福祉・就労支援関係者等の関係機関を参集し検討

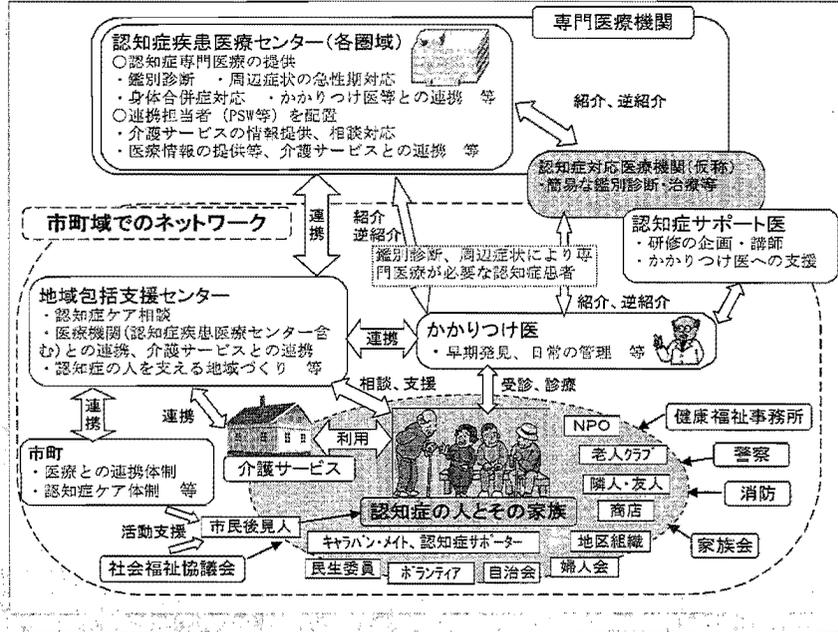
23

(参考) 若年性認知症就労・雇用サポート事業実施スキーム図(案)



24

医療と介護の連携による認知症の人の暮らしを支える 地域ケアシステム





平成23年度認知症地域資源連携検討事業

認知症地域支援体制

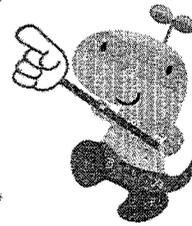
普及セミナー



～認知症の本人と家族を地域で支える
体制を築いていくために～

兵庫県丹波市の取り組み紹介

平成24年3月6日(火)
丹波市福祉部介護保険課
(市直営地域包括支援センター)
認知症地域支援推進員
主任保健師 金子ちあき

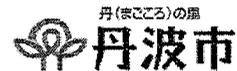


<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

丹まごころの里

丹波市の概況



丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、市内西部を南北に日本標準時子午線（東経135度線）が通っており、北東では京都府、南東では篠山市、南西では多可町、北西では朝来市と境を接している中山間地域となっています。その山々の接点を縫うようにして二大河川の源流が走っています。

特に市内の石生の「水分れ」は海拔95Mに位置し、本州一低い中央分水界となっています。「丹波霧」と呼ばれ、豊かな自然環境に一層の深みと神秘さを醸しだしています。面積493.28平方キロメートル

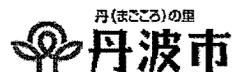
3月下旬から4月上旬にかけて、薄紫色の花を咲かせます。清任の里

<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.



丹波市の人口推移

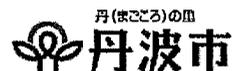


丹波市の高齢化率 27.7%

丹波市	合併時 H16.11.1	現在 H23.3月末
総人口	73,457人	69,333人↓ (19,195人)
男性	35,232人	33,246人↓
女性	38,225人	36,087人↓
世帯数	23,163世帯	24,493世帯↑

() は、65歳以上の人口

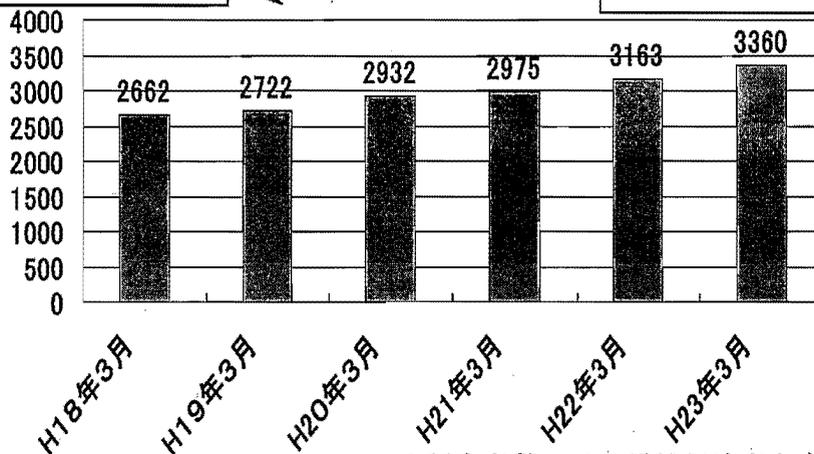
要介護認定者数の推移



認定者の約半数が認知症症状あり
(主治意見書)

要介護認定者の推移

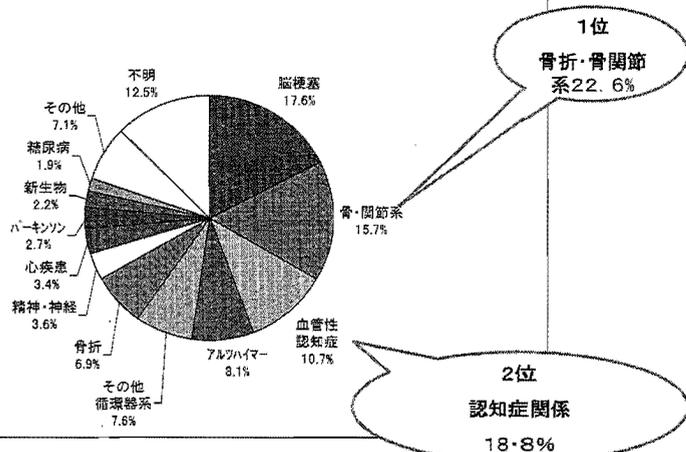
要介護認定者 3,360人
平成16年の1.4倍で980人の増
認定率 17.6%



※認定者数には2号被保険者を含む

介護認定 主要疾患別割合

丹波市介護認定主要疾患別割合(平成19年10月現在)



認知症高齢者の把握について

【把握方法】

①介護認定申請情報から

- 1) 認定日が平成20年10月1日～平成23年9月30日までの間で対象者を抽出
- 2) 同一人物で、更新等により重複している場合は最新の認定日を採用
- 3) 意見書認知症Ⅱa以上を抽出し、上記によりリストを作成

②介護保険認定者異動情報から

- 1) 平成16年11月1日から平成23年9月30日までの資格喪失者を抽出
- 2) 上記①で作成したリストと照合し、転出・死亡等による資格喪失者を削除

③平成23年9月30日現在で抽出した。

認知症高齢者数 2,092 人

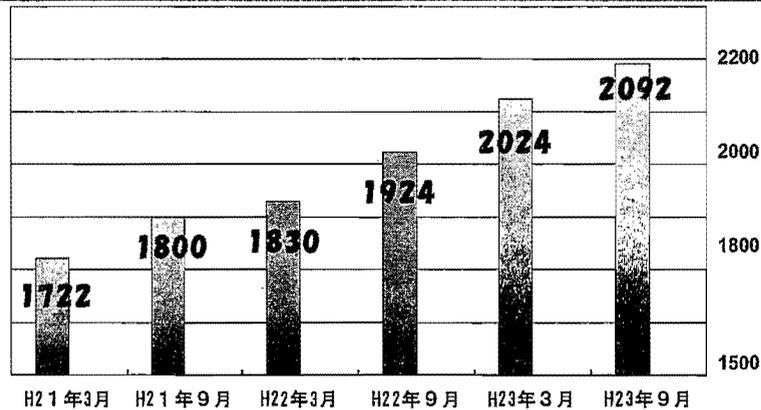
(内 若年性認知症者数 29 人)

※若年性は40歳以上 65歳未満の者

認知症高齢者の推移

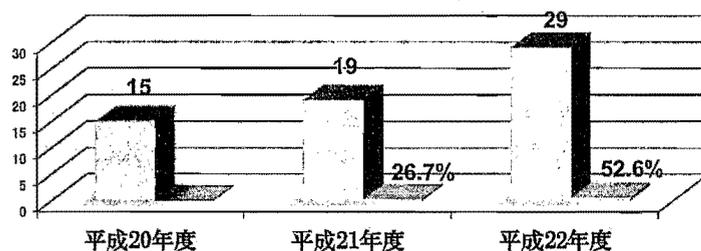
認知症とは

いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障をきたした状態



高齢者虐待の相談・通報件数の推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
相談・通報件数	15件	19件	29件
【前年比増加率%】	—	↑26.7%	↑52.6%



虐待されている高齢者の状況

80歳以上が7割で、女性が9割を超え、85%が要介護認定者。
その内、認知症あり（認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上）が65%を占める。

虐待者の状況

息子や夫など男性が多く、同居の近親者から虐待が行われている。
世帯構成は既婚の子と同居世帯が半数を占める。



地域課題



背景・・・第4期計画の取り組み

高齢化が進む中、一人暮らし高齢者世帯

高齢者のみ世帯が増える現状

要介護認定者の増加に伴う認知症者の増加・虐待発生

実情・・・平成7年から丹波老人性認知症センターが稼働中

(現：丹波認知症疾患医療センター平成21年度から) 【平成19・20丹波市・篠山市で補助金支援】

医師・相談専門員が地域からの相談対応を継続中

地域包括に多くの相談が寄せられるようになっていたが

市の認知症の担当者が明らかになっていない状況

きっかけ・・・平成21年度認知症対策連携強化事業に取り組み

モデル事業をうけることになり市職員を配置

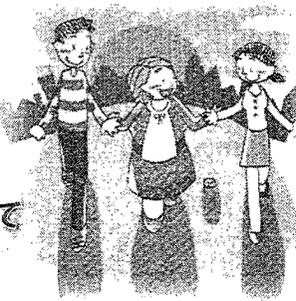
<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

いま、私たちに出来ることは



住み慣れたまち
丹波市で
いつまでも安心して
暮らすために...



あなたは
やさしく
声をかけられ
ますか？

まちがった遠慮をされていませんか

<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.



地域ビジョン

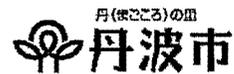
ビジョンを実現するための方針や焦点 丹波市認知症対策緊急プロジェクト企画



- ・ 【地域の課題を踏まえて地域で目指していること】
 地域課題を共有・・・地域診断結果を伝える
 医療連携・・・センターと主治医・介護との繋ぎ
 多職種共同・・・多くの職種の協力と理解が必要
 介護の質の向上・・・介護現場の声を聴く
 今ある地域資源が共に3年間で質の向上を目指す
- ・ 地域ケア会議・・・地域単位での提案 6地域
 専門職から地域の人々へと課題を共有すること
 地域で自ら考えて動けるように働きかける
 支援者の視点を広げる・・・ひとりの課題を地域の課題に
 ～地域包括ケアの視点で生活を支えていくこと～



医療と介護の連携強化



誰のための連携か

住み慣れた地域でできるだけ長く暮らせるために

(慣れたところや生活環境は認知症の方には安心。)

『認知症になっても大丈夫なんです。』

『こわくないんですよ。おわりじゃないですよ。』

生活を支える医療と介護

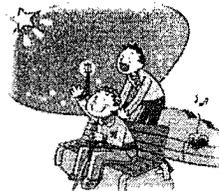
『本人のためにデイサービスに行きましょう。』

生活リズムを整える・進行をゆるやかに

そして、取り巻く周りの理解を共に推進

医療と介護の両輪ですすめる地域づくり

*** 第5期計画に向けての重点施策へ反映**



認知症対策連携強化事業の実施要綱



早期の段階からの適切な診断と対応、認知症に関する正しい知識と理解に基づく本人や家族に対する支援などをおおして総合的な支援体制を確立していくこと。

認知症介護研究・研修東京センターのセルフチェックシート活用

***従来から丹波認知症センターの実績があった。**

今回は名称変更で内容の継続・強化を図る。

認知症対策を推進する地域包括支援センター、介護サービス事業所、医師等の専門職の研修や地域資源の連携強化と質の向上を目標にしていくことになった。

主体：丹波市直営地域包括支援センター
認知症連携担当者：市の保健師の配置

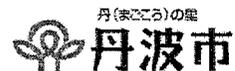
平成23年度からは認知症地域支援推進員の名称



<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

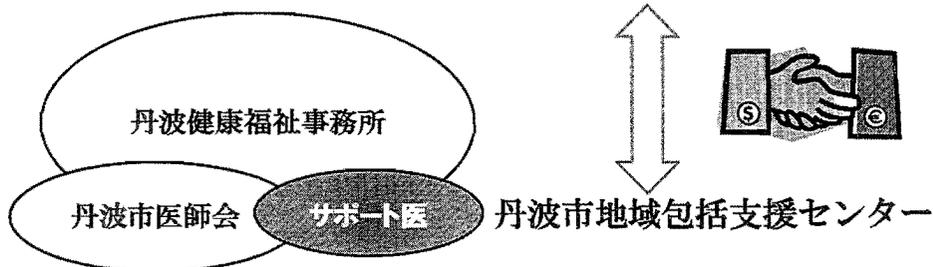
認知症対策連携強化事業



H21・22・23年度の取り組み 丹波市高齢者保健福祉計画・第4期介護保険事業計画

- ①医療と介護の連携強化 サポート医の役割強化
- ②地域支援ネットワークの形成・構築
(在宅介護支援センター・地域ケア会議の充実)
- ③虐待事例・権利擁護の観点からの支援体制整備

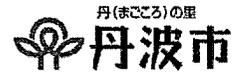
丹波認知症疾患医療センター



<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

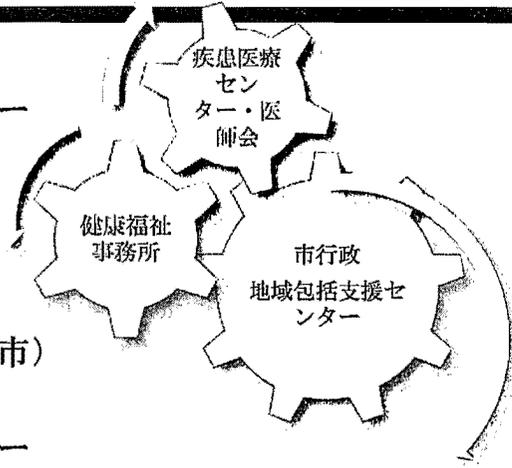
それぞれの役割



○丹波認知症疾患医療センター
専門医療・専門相談
地域医療に対する指導

○丹波健康福祉事務所
医療圏域（丹波市・篠山市）

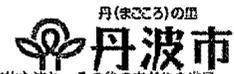
○丹波市地域包括支援センター
認知症連携担当者（認知症コーディネーター）の配置
保健師として本人・家族・地域を見る視点と調整力 行政にいる意味



<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

具体的な事業 3年間の取り組み内容



目的 プロセス 取り組み中でのしかけや工夫 普恵したこと 個別成果と課題全体のつながりと経年的な流れ、その後の広がりや進展

原点は家族会「ほっと」・相談ケースの対応

平成21年度認知症連携強化事業・・・本格実施は10月以降

ポスター作成・相談窓口の設定と啓発

認知症ケア多職種研修・研究事業（センター方式・地域回想法）

平成22年度認知症対策連携強化事業

サポート医の連絡会・かかりつけ医認知症対応力向上研修開催協力

キャラバンメイトフォロー研修・GH地域密着型介護事業所支援

介護者研修（ひもときねっと）・地域回想法ボランティア養成講座

サービス利用援助事業・権利擁護の相談の充実

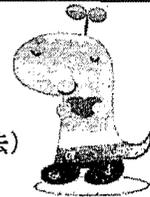
平成23年度市町村認知症施策総合推進事業

医療と介護をつなぐオレンジ手帳の作成・介護者教室支援強化

若年性認知者支援研修・回想法の校区内取り組み・認知症予防ゲームスリーA

虐待防止連絡会への提案

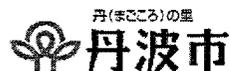
*平成23年10月～地域支え合い体制づくり事業 SOS見守りネットワーク



<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

認知症サポート医連絡会



平成22年度 3回目開催

平成23年度 2回目開催

運営：丹波認知症疾患医療センター長中心

市内・・・4名のサポート医がメンバー

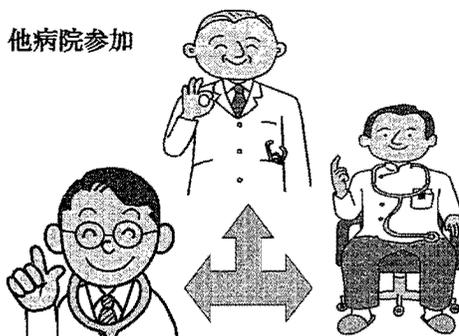
丹波健康福祉事務所が連絡調整

篠山市・丹波市地域包括支援センター・他病院参加

☆連絡会内容

症例検討会 ・ 連携検討
関係職種の勉強会等

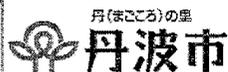
*平成23年度に新たに2名の
地域内の開業医が受講され
参加の依頼をして6名になる予定。



<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

高齢者のこころの医療相談日の開設



・ 毎月1回 第4火曜日の午後2時～4時

・ 丹波市役所 春日庁舎 1F 相談室2

平成21～23年度 毎月2ケース

相談スタッフ



予約制・無料

効果：処遇困難ケースをチー
ムで対応可能

医療の相談窓口の増設

虐待ケース・成年後見等

<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

介護相談日の開設・介護者支援



予約制・無料

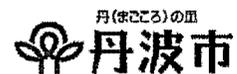
介護者を支援します。
 介護の負担を家族等で抱え込まないでください。
 「頑張る人ほど心配です。」
 個別にお話しをお聴きします。

相談スタッフ
 寺本相談員
 市連携担当者
 保健師

<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

啓発ポスター・相談窓口案内



認知症

こんな症状になったら…
早期発見と対応が大切です!!



早期発見

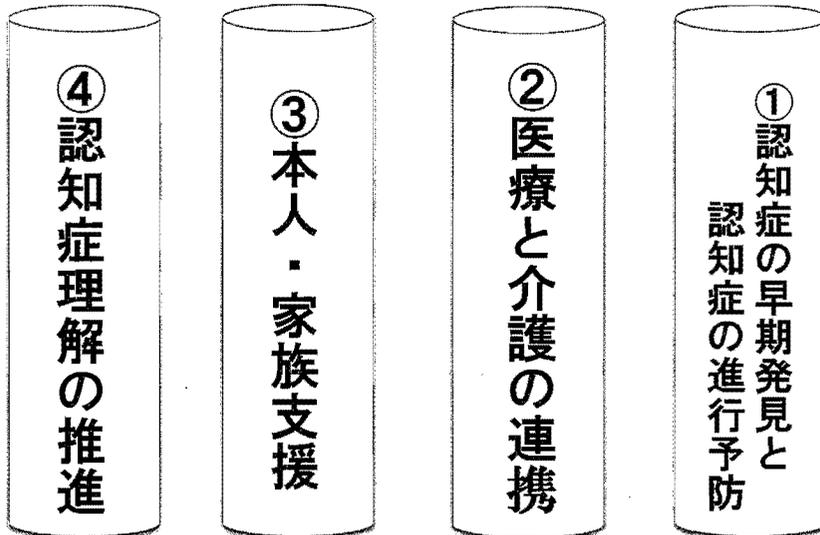


平成21年度
 医療機関・歯科医院・薬局・金融機関
 警察・駐在所等
 平成22年度
 各自治会公民館等に掲示
 SOS便利帳配布
 平成23年度
 介護保険事業者関係等

<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

丹波市の認知症支援対策

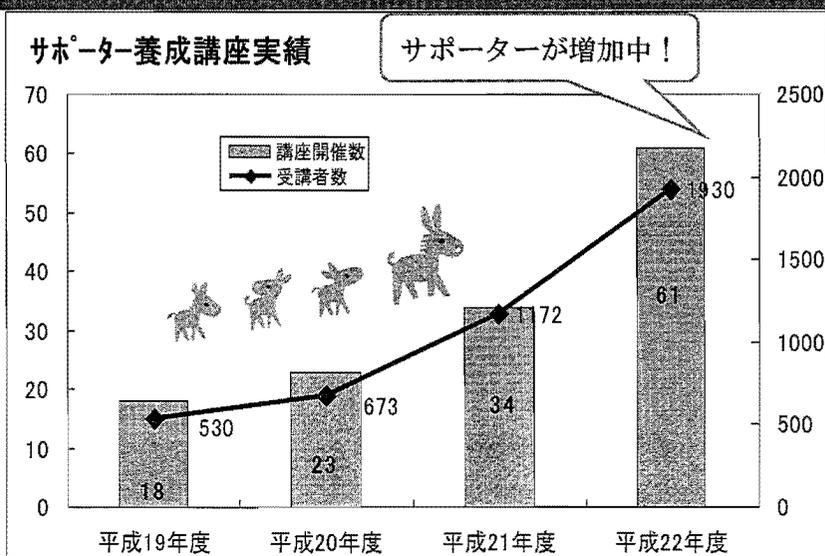


<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

認知症サポーター数

5,457人
平成23年12月現在



<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

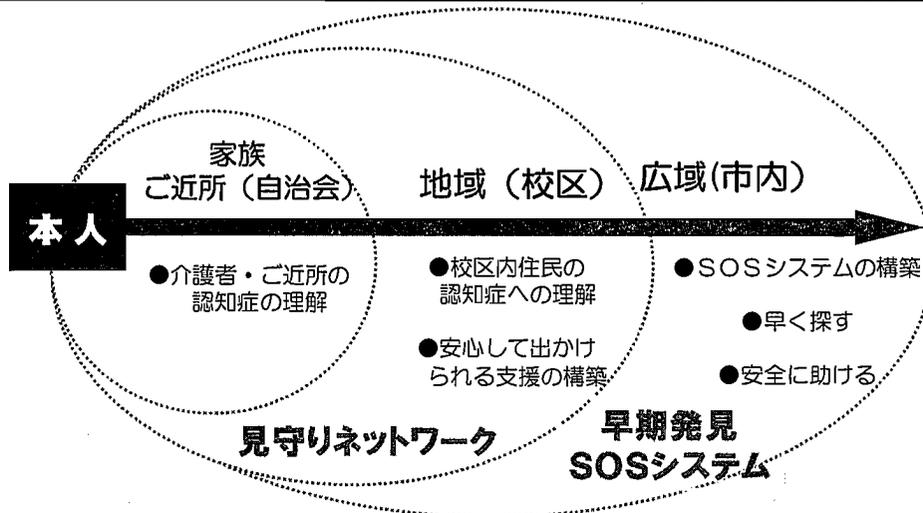
Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.



行方不明者の 捜索・発見の現状

- 警察から
丹波市生活安全課への報告 8件
(内 7件は市内の65歳以上)
- 防災無線行方不明者
情報提供のお願い放送 6件
- 消防団捜索要請 4件
- 発見時の状況
無事保護 2件
遺体確認 5件
- 自治会等からの
事前問い合わせ 数件

見守り体制の構築



早期発見！SOSシステム…

万一、行方不明になった時

警察署への届出

捜索の開始

- ・防災無線放送の依頼
- ・消防団の出動要請など

早期発見SOSシステムを活用

地域の協力いただける機関

日ごろの活動の中で気にかけていただく

多くの人の目で探すことができ、早く発見することができる
24年4月から開始できるように調整中

「地域の見守りネットワーク」

社会福祉協議会

サロンや老人会の仲間

丹波健康福祉事務所

民生委員

かかりつけ医

認知症疾患医療センター

薬剤師

商工会・スーパー店員

認知症の方とその家族

消防士

郵便局員・金融機関

丹波警察・駐在所

子ども達

知人・近隣者・自治会等

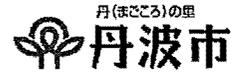
サービス事業所
介護相談員

弁護士・司法書士

ケアマネジャー



高齢者の総合相談窓口



総合相談窓口	丹波市地域包括支援センター ☎74-0368 (市役所春日庁舎3階介護保険課介護予防係内)
柏原地域	柏原けやき苑在宅介護支援センター ☎73-1185
	市役所柏原支所 ☎72-0544
水上地域	青葉荘在宅介護支援センター ☎82-7329
	市役所市原支所 ☎82-2002
青垣地域	ふれあいの郷もくせい在宅介護支援センター ☎87-1170
	市役所青垣支所 ☎87-1001
山南地域	在宅介護支援センターやまじ ☎77-3247
	市役所山南支所 ☎77-0240
春日地域	おかの花在宅介護支援センター ☎74-1705
市島地域	丹寿荘在宅介護支援センター ☎85-1111
	市役所市島支所 ☎85-1001

丹波市地域包括支援センターは・・・

地域の高齢者のみなさんが、住みなれた自宅や地域で、安心して暮らしていただけるように、介護・福祉・健康・医療などに関する様々な相談を受け付けています。

在宅介護支援センターは・・・

地域のお一人暮らしの高齢者高齢者夫婦・虚弱な高齢者等家庭訪問をしています。

平成22年度の相談件数等状況

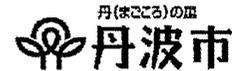
事業所名	相談延件数(21年度件数)	高齢者実態把握(21年度延件数)
地域包括支援センター	1,239件(1,163件)	
在宅介護支援センター6事業所	4,033件(3,666件)	1,413件(1,363件)
合 計	5,272件(4,829件)	



<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.

若年認知症者の相談窓口の強化



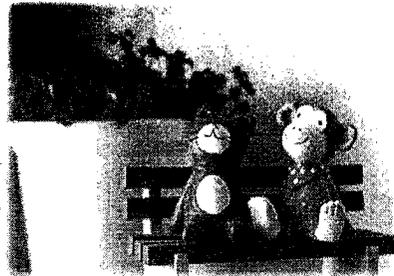
相談窓口の設置 オーダーメイドの支援体制

* 40～65歳までの方おられましたら
ご紹介ください。仕事を辞められる前
に・・・ご相談ください。
労働基準監督署に繋ぎをつくる。

◎認知症地域支援推進員が相談窓口で
す。

お気軽にどうぞと広報をしています。
また、丹波認知症疾患医療センターから
の紹介ルートで繋いでいます。

当事者のつどい
半歩の会を
はじめます



<http://www.city.tamba.hyogo.jp/>

Copyright©2012 TAMBA City All Rights Reserved.



種をまいていたら

徘徊ネットワークのことで悩んでいたなら地域自治会の元会長さんが笑顔で尋ねて来られた。

薬剤師会・病院の看護師さんから認知症の学習会のオファーが来た。

ケアマネジャーさんから高齢者のこころの医療相談日よかったわ・・・

地域包括は相談してもいいところと思ってもらえた。

地域のケアを考えていこう

地域ケア会議が充実し模索しだした・・・包括全体

現場は忙しいけれどもチーム力は出来てきた。これから・・・

健康福祉事務所との連携・・・医療・園域の課題解決

公衆衛生活動

行政体制組織 求めに応じて 打って出る

地域を複眼的・俯瞰的に総合的な視点で捉える

市民と向き合える・生活の場に出向く

人間力+専門職=統合された実行力

相互のコミュニケーション 市内

現場から制度や構造といった背景にはたらきかけ変えていく

ことができる活動

29

認知症ケアの勉強

認知症ケア専門士の
受験学習を日常業務を
しながら体系的に
取り組めた



全体的な成果と課題、今後の方向性

認知症の人を支えることが

認知症予防になる・・・虐待防止になる

☆特殊なことでない。

☆他人事ではない。

☆認知症の人は、自分の一歩先を行く人。

Paka Poko



市広報紙 毎月掲載 ⇒ 教えてロバタン

キャラバンメイト通信 ⇒ PAKA POKO 発行

ロバのように一歩一歩、ゆっくりだけど確実に、地域に認知症のことを理解してもらう』
という意味をこめて、ロバの足音“パカポコ”はスタートしました。キャラバンメイト事務局 K・I

限られた資源の中でそこにどう風を吹き込んでいくのか・・・

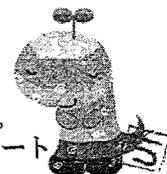
地域・家族・個人の課題を共有するやさしい町づくり

いっぱい、いっぱいごめんね、そしてありがとう。

自分の生き方を見つめなおすよい機会・・・

人権教育とは人間が優しくなれる人格形成の学習だと思います。

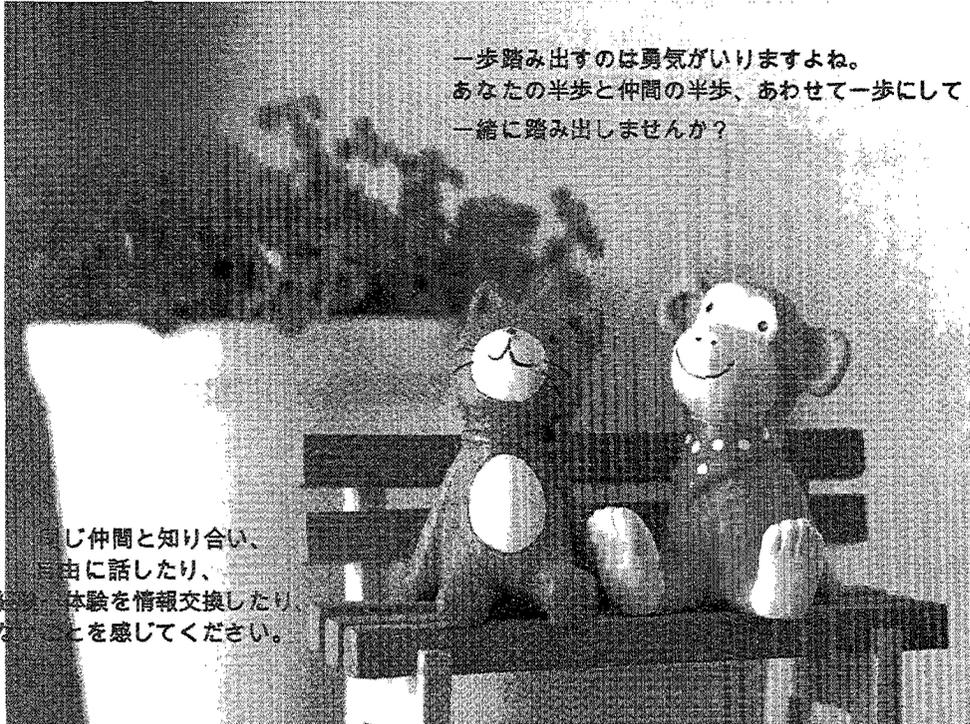
平成24年度丹波市自治基本条例に基づくまちづくり…参画と協働スタート



若年性
認知症者と
その家族の
つどい

HANNPO no KAI

半歩の会 (案)



一歩踏み出すのは勇気がいりますよね。
あなたの半歩と仲間の半歩、あわせて一歩にして
一緒に踏み出しませんか？

同じ仲間と知り合い、
自由に話したり、
お互いの経験や体験を情報交換したり、
一人じゃなかったと感じてください。



若年性認知症の方とご家族が気軽に集える場として、今年度より“半歩の会”
と名づけ交流会を始めることにしました。



認知症という、頭の中の見えない病気と、一人で、または家族だけで闘うのではなく、
仲間と思いを共感しながら向き合っていきませんか？

第1回は 4月13日(金) 🍰 春日住民センター 談話室で行います

ご本人・ご家族 誰でもご参加ください。事前のお問い合わせは、
丹波認知症疾患医療センター ☎82-4784 FAX:82-6880
丹波市地域包括支援センター ☎74-0368 FAX:74-3866

までご連絡ください



認知症サポーターマスコット
ロバ隊長

若年性認知症の広報・新聞

行政情報誌 広報たんば

若年性認知症の 電話無料相談



認知症は高齢者に多い病気ですが、若い人にも発症することがあり、65歳未満で発症した場合を「若年性認知症」と言います。もしも働き盛りの人が若年性認知症になると...

2010.6 たんば 18

①仕事に支障が出る。場合によっては仕事を辞めることにもなり、経済的にも大きな負担が生じる。

②介護などで家族の生活にも大きな影響が表れる。仕事を持つ配偶者が介護する場合、配偶者自身も仕事で十分でなくなり、身体的にも精神的にも、経済的にも大きな負担に。さらに親の介護が増える。

③子どもが成人していない場合、教育、就職、結婚などの人生設計が変わる場合もあります。

若年性認知症かな？

と思ったら、早期診断・早期治療の機会を逃さないために、

若いと認知症と気付かず、がまんしたりそのままにしたりして、本人も家族も悩みなから原因がはっきりしないままの状態が長く続くことが多くあります。お早めにご相談ください。

若年性認知症のご相談は、

地域包括支援センターまで

認知症は高齢者に多い病気です。しかし、年齢が若くても発症することがあり、65歳未満で発症した場合を「若年性認知症」と言います。もしも働き盛りの人が認知症になると...

①仕事に支障が出る。仕事を辞めることになり、経済的に困難な状況になる。

②介護などで家族にも大きな影響が表れる。配偶者が仕事を持つ場合は、身体的・精神的、また、経済的に大きな負担に。さらに、本人や配偶者の親の介護と出ると、負担が増えます。

③子どもが成人していない場合には、教育、就職、結婚などの人生設計が変わる場合もあります。

若年性認知症かな？と思ったら...

がまんしたり、そのままにしないでください。本人も家族も悩みなから、原因がわからない状態が続くことが多くあります。お早めにご相談ください。

社会福祉法人 仁善会 認知症介護研究・研修大府センター
〒0800-1001-2707 (通話無料)

利用時間 月～土曜日(年末年始・祝日除く) 午前10時～午後3時

※専門の教育を受けた相談員が対応します。

※個人情報保護は厳守します。

岡丹波市地域包括支援センター

(春日町舎・介護保険課内) ☎74-0368



2011.6 たんば 28

(第3種郵便物認可)

2011年(平成23年)11月17日(木曜日)

丹波市は今年度、64歳までに発症する若年性認知症者に対する支援に力を入れている。市地域包括支援センター（市春日庁舎内、0795・74・0368）に認知症地域支援推進員を配置。専門医と連携をとりながら、生活、介護、福祉などの面

丹波市が設置

から総合的に相談にのる。また、認知症を正しく理解する人を養成する「認知症サポーター養成講座」などで「若年性」についても触れ、地域で支えていくための理解の浸透にも力を入れている。

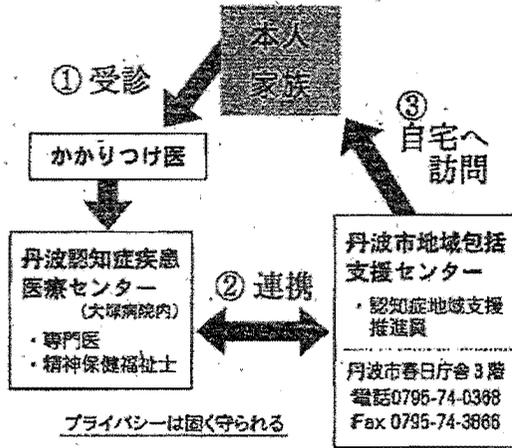
(芦田安生)

若年性認知症

推進員が生活相談

負担大きい本人・家族支援

同センターによると、家庭をもち、働き盛りの世代に起こる若年性認知症は、高齢者の認知症と比べ、症状の進行が早く、生活が困難な状況になり



やすい。また、発症後の人生が長いために、家族を含めて介護や経済的、精神的負担も大きい。また、どこに相談すればよいかが浸透していないのが課題という。

若年性認知症は、脳梗塞や脳出血などの脳血管性障害が原因で起こる割合が最も高く、高齢者の認知症に比べ、認知症と関係なく、更年期障害も課題という。かかりつけ医や専門医を受診し、医師からの紹介があった人を、同推進員が訪問し、どんなことに一番困っているかを聞き取り、相談にのる(無料)流れ。同推進員は、就労している場合の支援や子どものための奨学金制度、医療費の減免、障害福祉や介護保険のサービスを紹介するなど、さまざまな面から本人と家族をサポートする。同センターは、「おかしいな」と感じたら、まずはかかりつけ医を通じて専門医を受診してほしい。地域の中にも理解者を増やし、本人や家族を支えていけるようになれば」と話している。

認知症行為不明相次ぐ

丹波市内 今月3人遺体で発見

警察や関係者注意

丹波市内で今年に入ってから、家族に対しては認知症患者が家を出たまま行方不明になるケースが相次いでいる。5月12と17日には、65と82歳の男女2人が家を出た後、1週間以上経っても見つからなかった。丹波署は、不明者登用期間に経過する中、市内の55歳以上の認知症3人が死したと報告された。

症者は、2010年3月、同様に55歳、90人は月時短で少なとも約1900人で、増加傾向にある。同様に昨年、認知症患者が所在不明になったという届けが4件あり、いずれも保護された。今年以降は7件連続し、丹波署は、保護を要するようになったが、保護は至らなかつた。

丹波署は「ハンギョウ」の認知症患者の増加を懸念し、警察や関係者注意を呼びかけている。また、市内の女性グループ「55歳以上」は「地域と連携して捜せるかが鍵。家族だけでなく問題を抱え込まないで、丹波から近所や友人にオアシスにして、困りごとを聞いておけるような体制を整えている。

丹波山

■丹波総局
〒669-3308
丹波市相原町小南48
TEL:0795-72-0540
FAX:0795-72-2159
e-mail:tanba@kobe-np.co.jp

■丹波支局
〒669-3322
丹波市長原町22
TEL:079-552-0025
FAX:079-552-0059

火事や事故の通報、写真、映像、録音、身元確認、生活情報、上記の連絡先、近所、近所、近所の情報は、下記で受け付けます(有料)

24時間サポートセンター (月~土) 10:00~17:30
TEL:078-362-7056

2011.5.19(木) 神戸新聞

川に転落、男性が死亡
20日午後2時50分ごろ、丹波市丹波町上坂の

丹波町で、男性(55)が浮体で、川に転落して死亡した。丹波町消防本部は、丹波町上坂の川で、男性(55)が浮体で転落して死亡したと報告された。丹波町消防本部は、丹波町上坂の川で、男性(55)が浮体で転落して死亡したと報告された。

2011.10.21 神戸新聞

不明の男性 遺体で発見
山南で
16日から行方分からなくなっていた丹波市内の男性(55)が、17日午前10時46分ごろ、山南町谷川の田舎敷側の隣山で、遺体で見つかった。丹波署はヘリコプターで捜索していた。

2011.5.19(木) 丹波新聞

ダム湖から車、男性遺体収容
市島大杉ダム
7日午前10時39分ごろ、大杉ダム(市島町御座)のダム湖に軽トラが沈んでいると、同ダム管理入(76)が110番通報した。市消防本部の隊員が車の運転席から、丹波市内男性(81)の遺体を収容した。

男性は、7月19日から行方不明になっていた。近所の人から再三、同ダム周辺などを捜索していた。好天続きで水位が下がったことで、見つかった。



2011.8.11(木) 丹波新聞

認知症は高齢者
だけの病気ではあ
りません。

若年性認知症

と診断された方・ご家族の方へ

身近な総合相談窓口を開設しています。

お気軽にご利用ください。

必要に応じて担当者が面談や訪問をさ
せていただきます。

プライバシーは守られます。

公的な総合相談窓口です。

丹波市地域包括支援センター

【丹波市福祉部介護保険課春日庁舎 3階】

保健師・主任ケアマネージャー・社会福祉士等が対応します。

* 概ね40歳から64歳までの方で気になる方がありまし
たら、お気軽にご連絡ください。

電話 0795-74-0368



0795-74-0368

認知症は高齢者
だけの病気ではあ
りません。

若年性認知症

と診断された方・ご家族の方へ



身近な総合相談窓口を開設しています。

お気軽にご利用ください。

必要に応じて担当者が面談や訪問をさ
せていただきます。

プライバシーは守られます。

丹波市地域包括支援センター

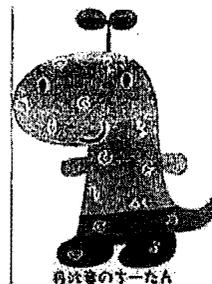
【丹波市福祉部介護保険課 春日庁舎 3階】

保健師・主任ケアマネージャー・社会福祉士等が対応します。

* 気になる方がありましたら、お気軽にご連絡ください。

一緒に対応を考えていきます。

電話 0795-74-0368



若年性認知症と診断された家族の方へ

65歳未満で発症する認知症を『若年性認知症』といいます。
現在、全国で3万8千~4万人の若年性認知症の方がおられると
言われています。

ほとんどの方が家庭で生活されており、介護者は配偶者である
場合が多く介護者も比較的若い人たちです。

本来であれば、職業を持ち家庭生活を送っている人たちですので
突然の発病、診断に驚きと不安を感じておられることと思います。

今すぐには生活上の支障が出ていなくても、今後病気の進行と
ともに予測される症状の出現やその対応にご家族だけで立ち向かう
には大きな不安やストレスを伴うと推測されます。

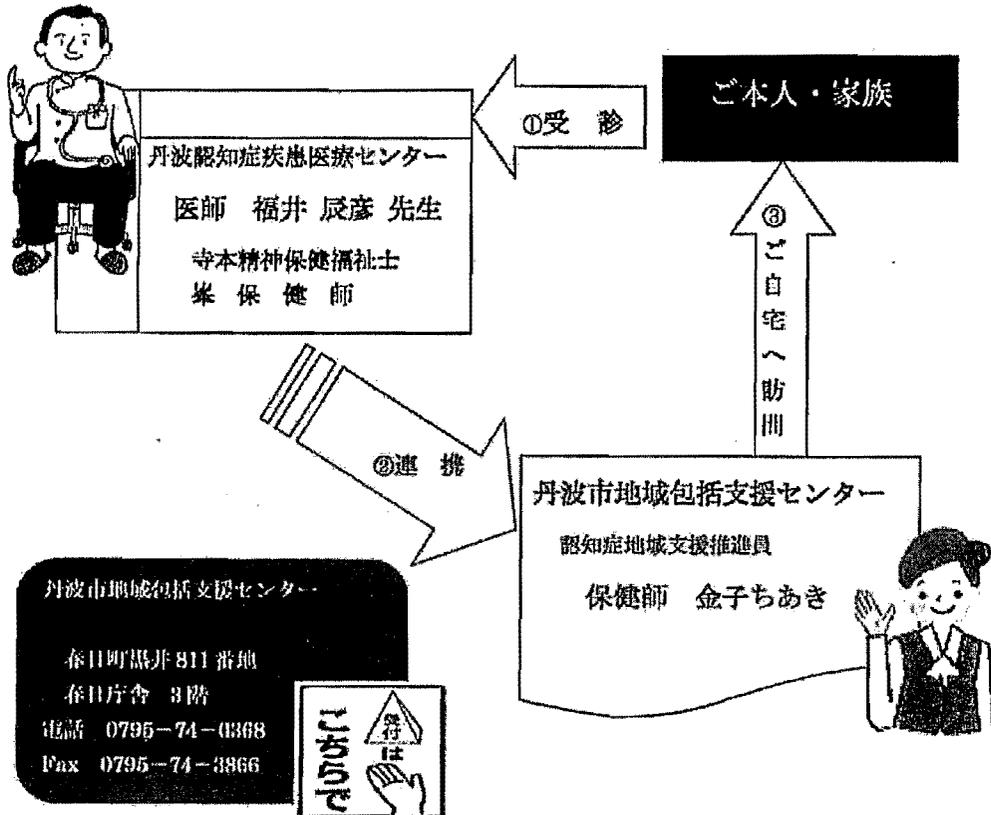
そこで、これからご本人とご家族を専門の知識を持った支援者が
連携して、チームで支援させていただくことになりました。この『丹
波地域若年性認知症支援システム』を活用いただきたいと思います。

若年性の認知症と診断された方・ご家族の方へ

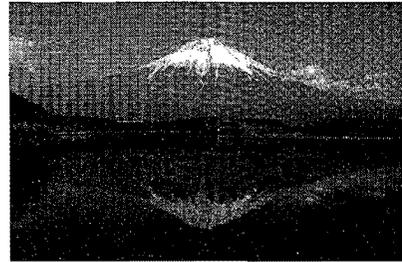
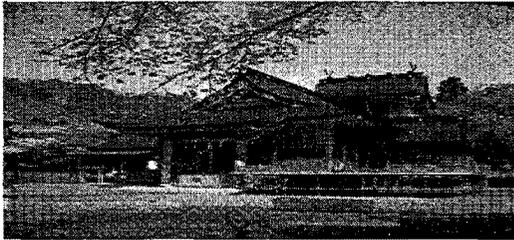
丹波市では、丹波認知症疾患医療センター等で診断を受けられた方に、身近な生活・介護・福祉の総合相談窓口を開設しています。

先生からの紹介で、担当の保健師が面談や訪問をさせていただくシステムになっております。(無料)

プライバシーは固く守られます。今すぐにお困りのことはないかもしれませんが、今の生活の様子をお聞かせください。



静岡県 富士宮市



「誰もが」「住み慣れた地域の中で」
「尊厳を保ち」「幸せに・健やかに」「安心・安全」
な日常生活を営むことのできる「まち」

富士宮市福祉総合相談課



富士山の西南麓に広がる富士宮市は、富士山を御神体として平安時代に造営されたといわれる富士山本宮浅間大社の門前町として栄えてきました。

気候は、温暖で富士山の雪解け水を源とする豊富な湧き水や、緑あふれる朝霧高原など豊かな自然に恵まれています。

面積・・・388.99km²

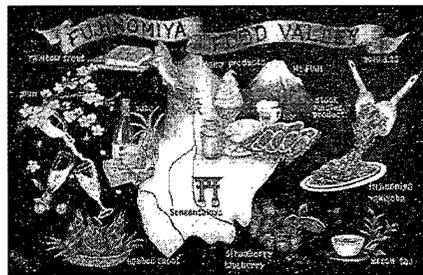
(東西20.92km、南北32.63km)

標高・海拔 35m ~ 3,776m人口・・・35,792人

世帯・・・51,741世帯

1人暮らし高齢者世帯・・・4,421世帯

高齢者のみの世帯・・・3,612世帯



富士宮市の現状

人口		135,792人
高齢者数		29,833人
高齢化率		21.97%
認知症高齢者 日常生活自立度Ⅰ以上	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	3,931人
認知症高齢者 日常生活自立度Ⅱ以上	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	2,902人
認知症高齢者 日常生活自立度Ⅲ以上	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	1,206人

これまでの取組み(モデル事業)

1:未来志向研究プロジェクト事業 H17・18

- ◇福祉総合相談窓口の開設
- ◇地域福祉ネットワークのイメージ図の作成

2:認知症地域支援体制構築等推進事業 H19・20

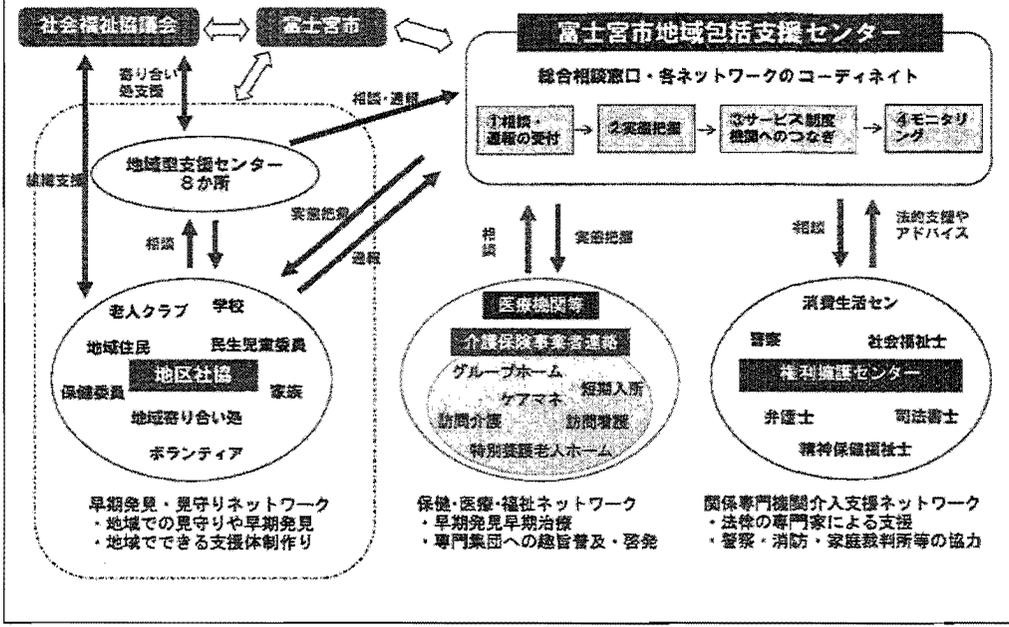
- ◇認知症をひとつの切り口として、フォーマル、インフォーマルの具現化

3:市町村地域包括ケア推進事業 H22・23

- ◇保健・医療・福祉・住まい全体を見た計画化
- ◇福祉総合相談システム導入による相談業務の安定化・効率化
- ◇認知症だけでなく地域福祉ネットワークの強化



地域福祉ネットワークイメージ



認知症地域支援体制構築等推進事業スタート

ベースとなる
地域福祉ネットワーク

+

認知症見守り機能

追加していく！！

あまり地域モデルのない中、事業の要綱には、「地域資源マップ作成」や「徘徊SoSネットワーク模擬訓練」などの活動目標が羅列されていたが、それ以前にやるべきことが…

富士宮市の理想・目標

認知症本人・ご家族にとって本当に必要な支援を考えること

➔

これが先決

何をもって、「認知症見守りネットワーク」というのが



認知症家族の会とのワークショップ

家族会(さくら会)の会員(20人)とのワークショップを通じて、
家族介護者支援策について報告書をまとめる。



定例的に報告会を実施

メンバー: さくら会員・市介護障害支援課職員・地域包括支援センター職員・社会福祉協議会職員

平成20年10月28日	富士宮市からさくら会に提案	
平成20年11月11日	さくら会員20人に趣旨と取組みを説明	出席者: 聖隷クリストファー大学小松教授、地域包括支援センター、市 会員に付録紙を配布し、次回までに、日頃困っていることなどを書き込んで来てもらうことを依頼
平成20年12月9日	さくら会員20人とワークショップ	出席者: 聖隷クリストファー大学院生、地域包括支援センター、市 4グループ(1グループ5~6人)に分かれて付録紙の内容を開取り
平成21年1月27日	さくら会役員とのディスカッション	出席者: 聖隷クリストファー大学院生、社協、地域包括支援センター、市 2グループに分かれて、付録紙を模造紙にグルーピングしていった
平成21年2月3日 ~17日	模造紙の内容から、問題・課題を整理	出席者: 聖隷クリストファー大学院生、地域包括支援センター、市
平成21年2月13日	さくら会・宇佐美会長とディスカッション	
平成21年2月24日	さくら会役員とのディスカッション	問題・課題の解決策について
平成21年3月10日	さくら会員23人への中間報告会と意見交換	
平成21年3月31日	さくら会役員とのディスカッション	対応策について
平成21年11月10日	さくら会員への報告会(1年間の進捗状況)	対応策について

家族会とのワークショップ

さくら会からの関わりによる家族介護の負担感

— 認知症の方を家族が介護するとき何に困るか? —

介護に対する役割・意識

能力

介護現場

介護の知識・技術やストレス対処能力や健康などを向上してもそれだけではだめだ

半分以上は介護をしていく環境に困難を感じていた!

様々な立場の方々との関係・つながりから介護を困難に感じている

介護への思いや受容など人とのつながりとの関連が

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく笑顔で暮らすために

地域福祉ネットワークに認知症見守り機能を付加する取り組み

認知症の正しい理解の普及・啓蒙ネットワーク

第1ステップ：自助力を高める

第2ステップ：互助・共助力を高める

本人・家族からの相談を受け、受容、治療へとつなげるためのネットワーク

第3ステップ：早期発見・早期治療体制の構築

リスクの高い(虐待・消費者被害・徘徊等)高齢者の発見から専門機関へつなぐネットワーク

第4ステップ：相談体制の確保

第5ステップ：介護者支援ネットワーク

認知症サポーター養成講座（様々な支援の輪）

- ▶ 自治会
- ▶ 寄り合い処(地域サロン)
- ▶ 老人クラブ
- ▶ 民生委員
- ▶ 趣味サークル(卓球サークル・ギターサークル)
- ▶ 子ども会
- ▶ 学童クラブ
- ▶ 子育てサークル
- ▶ 消防団 など



民 産

- ▶ 商店街
- ▶ 旅館料理組合
- ▶ 小売店(HAC・セブンイレブン・マイナートなど)
- ▶ タクシー協会
- ▶ 富士宮信用金庫
- ▶ ユーブ静岡
- ▶ ヤクルト など



- ▶ 高校
- ▶ 中学校
- ▶ 小学校



学 官

- ▶ 富士宮市職員
- ▶ 富士宮市消防本部
- ▶ 富士宮警察 など



推挙(累計)	H18	H19	H20	H21	H22	～H24.2	計
認知症サポーター数	35人 [1回]	572 [10回]	1,687人 [54回]	2,698人 [82回]	1,698人 [51回]	1,187人 [28回]	7,877人 [226回開催]
キャラバンイベント数	14人	6人	158人	2人	60人	3人	243人



わたしたちがイメージする

「認知症の方にとって必要な支援とは？」

『認知症の人が安心して暮らせる』ってどういうこと？

若年性認知症の方から学んだこと

佐野光孝さん 58歳

ある日突然、佐野光孝さんと奥さんが地域包括支援センターの窓口にくられました。



妻



- ・あと少して60歳。できる限り働きたい！
- ・なんとか働けるなら…ボランティアでもいい。
- ・営業マンだったので、人と会話するのが得意。
- ・人と接することが好き。
- ・観光が好き。
- ・富士宮焼きそばを…色々な店で食べたことがある。



夫
(認知症本人)

- ・家に閉じこもってしまうと、病気が進行してしまう。
- ・安心して出かけられる場所がほしい。
- ・夫にできることがないかしら…？
- ・夫にできることは、なにかしら？

夫の思い

一家の主として、1人の男として…

働いて収入を得、自分が家族を支えたいというプライドがある

家庭を支えることができない虚しさ

収入を得られない悔しさ

閉じこもった生活からの脱出（人との関わりを持つ）

まずは

「好きなこと」で、「できそうなこと」を探してみよう!!



何よりも夫が楽しみ・生きがい・社会との
関わりが持てるような場所があればなあ…

営業マンだった経験・住居
2人の生活リズム・特技・趣味

を考えると…

観光…
ボランティア…
焼きそば…

そうだ!!

焼きそば
ボランティア!!



トップランナーの役員を務めていた
「くらしの相談課長(市職員)」の所に、
夫妻を連れて相談へ…

病気を抱えています…
ボランティアに参加できますか?

大丈夫!!



実際に見学して様子を見てから決めることに…

まちづくりトップランナー富士宮本舗(NPO法人)が運営する
「焼きそばの観光案内所(まちづくりサロン宮っ)」

帰りに観光案内所を見に行ってもらうことに…。

シルバー人材センターを紹介

しかし…
「うちでは、受け入れられません。
病気が治ってから来てください。」
と言われてしまいました。



そこで、認知症について…
できること・できないこと
認知症はどんな病気か?
を説明しに行きました。

しかし、労務管理等の理由から受け入れ
てはもらえませんでした。

様々な出会い



認知症ご本人が思いを語る。

認知症本人と家族の思いに触れる⇒地域の活動者の原動力

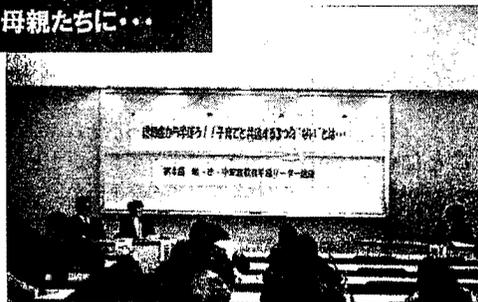
キャラバンメイトに・・・



介護保険事業者に・・・



母親たちに・・・



(認知症サポーター養成講座の取組み)

地域で活動する市民と、認知症の問題・課題を共有する。

民生委員でありキャラバンメイトでもあるAさんの場合

Aさんの向かいに住んでいる認知症のおばあさんが、「財布を盗まれた。」と言って、剪定ばさみを持って隣の家に押し入ったところ、家の方が驚いて、警察を呼んでしまった出来事がきっかけとなり、区長と連携して、認知症サポーター養成講座を区内に展開していった事例。

黒田区民の活動(H20. 12~H24. 3)



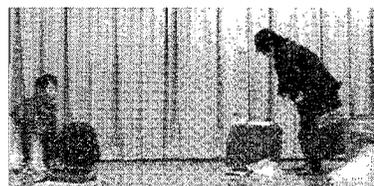
キャラバンメイト(民生児童委員)Aさんが区長・町内会長と連携し、毎月、町内ごと(全7町内)に講座を実施した。

(1町内から7町内までローテーションで毎月実施。)

地元の寄合処スタッフ・民生委員がチームを組み、講師を務めたり、寸劇等を披露している。

(参考)20歳以上人口1,716人

認知症サポーターとなった区民が次々とキャラバンメイトになり、スタッフとして関わる。



黒田区キャラバンメイト in 榮寿源道寺

入浴後のドライヤー「横になりたいよ」の要望にお話しながらも手早く仕上げたら。「ありがとう」と。



「初めてだから わからないよ」「私も初めてです」と共に苦労して一つの作品に。「きれいにできたね」「本当に」「もう一つ作りましょう」

地元のメイトさんに来て頂き、施設の様子や、認知症について知っていただけでうれしい(施設より)



(認知症サポーター養成講座の取組み)

地域で活動する市民と、認知症の問題・課題を共有する。

教師の思いを実現する

小学校の先生は・・・

「子どもに思いやりの心を育てたい。」

中学校の先生は・・・

「もっと地域に開かれた学校にしたい。」

学校に広がる認知症サポーター講座
『認知症の正しい理解者・ともにいきる姿勢』

小  **中**  **高** 

**市内の高校生が一同に集まる
夏休み高校生サポーター養成講座!**

高校生の認知症サポーター養成講座は、授業枠だけでなく夏休みを利用して高校生向けの企画をしています。キャラバンメイトと各学校の先生方で講座の企画会議を行っています。

グループホームでのボランティアへ





(認知症サポーター養成講座の取組み)

地域で活動する市民と、認知症の問題・課題を共有する。

まちづくり関係者の場合

- ◇ おもてなしのある「まち」にするため、定例的に「おもてなしセミナー」を開催している。(観光協会)
- ◇ 高齢者が立ち寄って、くつろげる商店街にしたい。(商店街のおかみさん)
- ◇ 「毎日同じものを購入していくお年寄りがいるけど、どうしたらよいか・・・。」(ドラッグストア店員)

などの思いがそれぞれの講座を作り出す。

ドラッグストアなど

安心して買い物ができるまちに・・・
(小売店向け接遇講座)



お店で働くみなさま

認知症から接遇を学びませんか？！

お店でこんな困ったことはありませんか？

- 「お年寄りの声がかたくなかなか聞き取れないので、つい大声で話してしまいます。」
- 「お年寄りの声がかたくなかなか聞き取れないので、つい大声で話してしまいます。」
- 「お年寄りの声がかたくなかなか聞き取れないので、つい大声で話してしまいます。」
- 「お年寄りの声がかたくなかなか聞き取れないので、つい大声で話してしまいます。」
- 「お年寄りの声がかたくなかなか聞き取れないので、つい大声で話してしまいます。」
- 「お年寄りの声がかたくなかなか聞き取れないので、つい大声で話してしまいます。」

それは認知症【脳の病気】が原因かもしれません。こんな時どうしたらいいの？ 一緒に学びましょう！！

認知症の理解と具体的な対応方法を学べる講座を開催します！！

接遇研修(認知症サポーター養成講座)
 とき：平成22年3月17日(水)
 午後7時～午後8時30分
 ところ：富士宮市役所 7階 特大会議室
参加申し込みは、お申し込みの用紙にご記入ください。

認知症サポーターがいるお店として
富士宮市のホームページで紹介いたします。

認知症講座受講

各店舗を随時でも
受講できます。

お店PR紹介

当日、サポーターの募集やお店のPRを富士宮市のホームページで紹介いたします。

富士宮市
ホームページ掲載

認知症の方でも安心して買い物ができる
認知症サポーターがいるお店として
ご紹介していきます！！

接遇研修申込書

氏 名： _____

参加者名： _____

通 信 先： _____



認知症サポーター（住民ボランティア）と認知症の方が「つながる」きっかけ

それは、本人中心の個別ケアから・・・

徘徊高齢者に必要と思われる支援について・・・

事例ケース



Bさん(83歳)認知症の女性の事例

ケアマネさんからの相談

市は認知症サポーターをたくさん養成しているけど・・・

私の認知症の困難ケースには、ぜんぜん繋がってこないんだけど・・・。

この困難ケースって、どうにかならないかしら？

83歳女性 要介護2 認知度Ⅲ a 息子と2人暮らし

- ・実家は農家。7人兄弟の一番上
- ・働き者
- ・運動得意
- ・18歳で結婚。
- ・子育てをしながら、パートをしたこともあり、孫の世話もよくしていた。
- ・掃除好き
- ・本人の意向に沿わないと表情が陰しくなり怒る。
- ・会話が成立しづらい。



ケアマネが困っていること ①

Bさん(83歳)認知症の女性の事例



ケアマネージャー

- ▶1日4回、往復1時間かけて、神社の掃除に行く。
- ▶掃除に行った事を忘れてしまい、また行ってしまう。
- ▶自分自身の体調管理ができない。
- ▶帽子を被るのを嫌う。
- ▶水分補給をしない。
- ▶自分の事を、言葉で表現ができない。
- ▶相手に対して、急に怒り出してしまう。
- ▶広い道路をよく見ずに渡ってしまう。
- ▶1日1回1時間のヘルパー派遣では、見守り支援が十分でない。



そっと見守ってほしい

ケアマネが困っていること ②

Bさん(83歳)認知症の女性の事例



ケアマネージャー

散歩中、畑作業中の方と会話になり、自分の実家の町名を尋ねられた。
Bさんが「それは、どっち？」と聞くと、
その方は、Bさんのいつもの（定期）ルートではない方向を指さした。
Bさんは、指された方向に突然歩き出してしまった。

その時は、たまたまヘルパーと一緒に歩いていたので、どうにか、定期ルートに戻すことができた。

何かの拍子にいつもの（定期）ルートから外れる心配がある。



早期発見できる方法がないか？

Bさんのために目指す「見守り」とは・・・

<p>1 日常見守り時</p>	<p>本人が安全に歩けること。 家族が安心して送りだせること。</p>
<p>2 見当たらない時 (早期発見の方法)</p>	<p>家族が「あれ？いない」と思った時に、 早期発見・早期対応できること。 介護者・事業所等がいち早く状況を確認でき、 必要なところ（警察・民生委員・区長から消防団）に 支援を求めることができる。</p>
<p>3 行方不明時</p>	<p>あらゆる市民が気にかけてくれて、 情報を寄せてくれる。</p> 

Bさんのための「見守り支援」活動

<p>1 日常見守り時</p>	<p>本人が安全に歩ける。 家族が安心して送りだせる。</p>
<p>(1)家族・介護者・事業者が本人のことを知る アセスメント（地図上支援マップの作成） ■ケアマネがヘルパーから情報収集し、Bさんのリスクを 洗い出した。 ①とおり道でのアクシデントが心配 ②とおり沿いの家に入って、草取りや片付けをしてしまう（固定の家） ③道を誤って徘徊につながりかけた時がある</p> 	
<p>(2)Bさんの支援体制① 通り道でのアクシデントの対応 ケース会議開催（息子・社協・ケアマネ・民生委員・ヘルパー・地域型・包括） ■地図上支援マップの共通認識 ○息子の承諾（個人情報の扱い）を得て、ケアマネがチラシを作成 ○息子と一緒に、地図上にチェックしたポイント宅 （キパーン）に見守り支援を依頼！ Bさんの支援体制② 通り沿いの家への進入に対する対応・徘徊への対応 いつも入ってしまう家には戸別訪問により理解を求め、それ以外の通り 沿いにある家の方には、地域と連携して講座の開催を企画する。（進行中）</p>	

地図上支援マップ

「安心して散歩がしたい」
皆様の優しい目と手をお貸しください



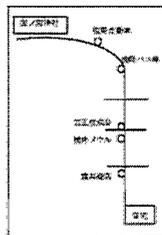
《お願い》

全ノ宮神社へ散歩や掃除に行くのが日課になっている認知症の方がいます。散歩の途中で、体調が悪くなった時、怪我をした時、家がわからなくなってしまった時、ご自分で助けを尋んだり、判断する事が出来ません。この方が、一日でも長く安心して散歩へ出かけられるように、地域の皆様の優しい目と見守りに、ご協力ください。

氏名 **B** さん
住所

＜特徴＞

- ・色弱で白髪
- ・エプロンか防寒服を着ている事が多い
- ・全ノ宮神社へ行くのが日課・神社内では掃除をしたり、景色を楽しんでいる
- ・声を掛けると、本人の意向に合わない事があると、表情が険しくなり怒る事がある
- ・靴ひれた事や、本人が言う事ばかりににくい事があり食事は調理出来ない事がある



＜緊急連絡先＞

※体調が悪そうなお時、道に迷っているお時、自宅と反対方向に歩いているお時などご連絡下さい

- 1) 携帯 ()
- 2) グリーンティール恩宅介護支援事業所
担当ケアマネージャー 深澤久美子
0544-25-3747
080-5290-5259
- 3) 富士宮市地域包括支援センター
0544-22-1591
- 4) 夢コープ(ヘルパーステーション)
0544-25-6050
- 5) 地域型支援センター 社会福祉協議会
0544-22-0094



Bさんのための「見守り支援」活動

2 見当たらない時 (早期発見の方法)

家族が「あれ？いない」と思った時に、
早期発見・早期対応できる。
介護者・事業所等がいち早く状況を確認でき、警察・民生委員・区長(消防団)に支援を求めることができる。

(1) 息子がいち早く状況を確認できる体制づくり

連絡名簿の作成

- キーパーソン(ポイント宅)に理解を求め、早急に確認できるよう連絡名簿を作成中

民生委員への支援依頼

- 近隣の民生委員にもチラシを配布し、見当たらない時の協力を依頼した。
- 民生委員が運営している地域寄合処に通っている高齢者(Bさんとはもともと知り合い)に、支援(道をそれていた場合の声かけ)を依頼した。

社会福祉協議会・地域型支援センターの取組み

- 市内循環バス(宮バス)の運転手(1日8往復、Bさんの通り道を通る)に、見守りを依頼した。

(2) 早急にしかるべき機関に情報を伝えるための準備

息子に、見当たらなくなった場合の手順を確認する。

- ①キーパーソン(民生委員を含むキーパーソン)に連絡して、Bさんの所在を確認する
- ②地域の人に協力を求める(ケアマネ)
- ③1時間で見当たらない場合は、区長(消防団)と警察に連絡する



連絡簿（案）

日さんが見当たらなくなった場合は・・・

- 1 状況の把握
連絡簿を使って、見守り支援者や親族等に連絡する。（家族）
（民生児童委員から一近隣（同支部）の民生委員・各隣の中の見守り支援者等へ連絡）
（ケアマネからヘルパー・地域型支援センターへ包括等に連絡）
- 2 見守り支援者が、知り合いなど、協力してくれる人に事情を話して、一緒に探す。
- 3 1時間して見付からない場合には、
 - 区民（ ）さん等（ ）に連絡する。
 - 警察（切符）に連絡する。（富士市警察署生活安全課 23 0110）

連絡簿（見守り支援者）

〇〇区〇〇〇〇民生児童委員	〇〇〇〇〇〇
△△区△△△△民生児童委員	〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇ケアマネジャー	〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇神社氏子総代の〇〇〇氏	〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇自動車整備工場	〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇商店	〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇飲食店	〇〇〇〇〇〇〇〇
地域型支援セ.ター	〇〇〇〇〇〇〇〇
富士市包括支援センター	22 1591

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく笑顔で暮らせるまち富士宮

このステッカーは、認知症の方や
そのご家族を暖かく見守る応援者の印です。

地域でのちょっとした支え合いが広がっています

“認知症サポーター”の役割は？



認知症サポーターのご自宅、外から見て目に留まる所にステッカーを貼っています。認知症の方やその家族のちょっとしたサポートに協力します。

安心してお買い物を！！
わたしたちが応援します。



認知症サポーターがいるお店でステッカーを貼っています。買い物を見守り、お困りのことがあればサポートします。

認知症を理解した優しいドライバーに

認知症サポーター養成講座を修了したドライバーの車内に貼っています。富士市と共同



認知症サポーター養成講座を修了いただいた方で「ちょっとしたサポート」が可能な方にステッカーを無料配布しています。オレンジリングを持参のうえで下記窓口にお申し出ください。

相談員・ケアマネジャーなどの福祉職が、認知症当事者とそのご家族の方と、認知症サポーターをつなぐと、「支え合い」をサポートします。

お問合せ・ステッカー配布先
* 認知症サポーター養成講座も開いています
富士宮市役所 福祉総合相談課
TEL 0544-22-1591



この事例を通して、ケアマネと民生委員との合同研修へ

1: ケアマネ役員と民生委員との懇談会

H23. 8. 26

- 高齢者の見守り支援・ゴミ出し支援につながる

2: 介護保険事業者連絡協議会・居宅介護支援部会研修会

「認知症（徘徊）高齢者に対する包括ケア」 H23. 9. 2

- ケアマネージャーと地域支援の見守り支援について（地域包括支援センター）
- 事例発表（介護保険事業者ケママネ）
- 小地域見守り支援ネットワーク事業について（富士根南地区社協会長）

「自由に出かけたい」
この思いを叶えたい



グリーンティール居宅介護支援事務所
主任介護支援専門員 坂本久美子

3: 地域ボランティアへの啓発 H23. 9. 12

- 福祉のまちづくりサポーター養成講座
- 認知症の人と家族を支える地域とは（介護保険事業者ケママネ）



ここがポイント！！



サポーターが地域で活躍するために

サポーター

を活かすのは



地域包括支援センター

ケアマネージャー

地域密着事業所

フォーマルとインフォーマルの情報の共有が必要。

介護保険事業者連絡協議会の活動

IV 認知症センター方式インストラクター養成(29人) (H22)

「利用者本位」のケアを実現するために、利用者を知るためのツールである「認知症センター方式」について、インストラクターを養成(市主催により年間6日間の研修を実施)した。

V 介護職スキルアップ事業(H22)

部会ごと作成した研修基本方針に基づき、年間22回の研修会を実施した。

(例) ケアマネージャーとヘルパーの意見交換会 施設間人事交流

VI 認知症センター方式インストラクター養成(30人) (H23)

H22年度の取組みをベースにして、各事業所内での展開と更なるインストラクター養成に着手している。

VII 認知症センター方式実践報告会 (H23)

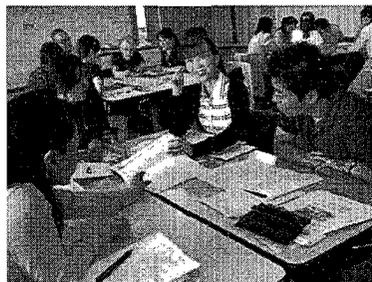
介護保険事業者連絡協議会主催

平成23年7月22日 参加者185人

認知症センター方式



「認知症の初期から最期まで、どこに住んでいても自分らしく暮らし続けたい」そんな本人・家族の願いを実現するためにつくられたのがセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式)です。
本人と家族を中心に、ケア関係者が共通シートを使って、互いの思いや実情、アイデアを出しあいながら、「本人と家族のよい暮らし」を一緒にめざしていく方法です。



認知症ケアのあり方「本人本位のケア」をもう一度再確認してみませんか？

「その人にとって何が大切か」関係者が視点を共有しながら実践できることを一緒に見つけていくために



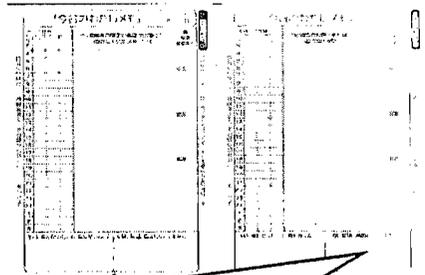
その他

「わたしの手帳」普及啓発活動（H23）

「わたしの手帳とは」

センター方式が介護保険事業者などの支援者が認知症本人を知るためのツールであるのに対し、みんなの手帳は、認知症本人または家族が自分たちの状態を整理するとともに、支援者にも情報を伝えるために開発されたセンター方式の簡易ツールです。

- 平成23年7月22日（金）
午後2時から キャラバンメイト対象
午後7時から 介護保険事業者対象
- 平成23年7月23日（土）
午前10時から 家族会対象

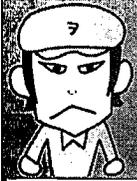


これからの日々が、安らかで自分らしく豊かな毎日になりますように。
無理のない範囲で、気軽にメモを残しましょう。あなたのちょっとしたメモが、医療や福祉のサービスを利用するときにも役立ちます。

認知症者支援医療機関ネットワーク研究会

専門医・認知症かかりつけ医・かかりつけ医による
「認知症者支援医療機関ネットワーク研究会」の開催

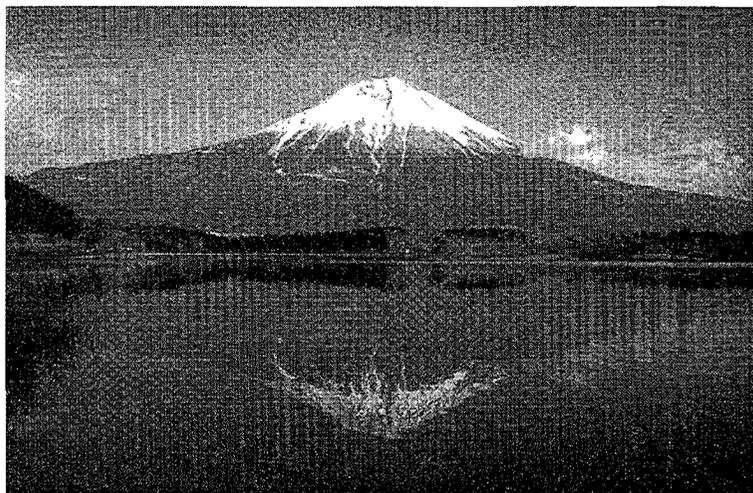
- (1) 認知症相談窓口医療機関一覧表の作成
- (2) 認知症相談医が初期の問診を迅速に安心して実施するための連携書式を作成
- (3) 相談医の研修会の実施
- (4) もの忘れ検討会の立上げ



平成24年度にがんばりたいこと..

- 事業所におけるケアの向上
(センター方式の実践)
- 徘徊行方不明者に対するルールづくり
- 地域密着事業所・ケアマネージャーを中心とした地域福祉活動団体との連携強化

次ページに「さくら会からの聞き取りによる家族介護の問題」の資料を見開きで掲載しています。



さくら会からの聞き取りによる家族介護の問題

— 認知症の方を家族が介護するとき何に困るか？ —

介護に対する役割・意識			能力	
<p>伝統的な意識 = 義務感</p>	<p>日常的な 介護への思い</p>	<p>受 容</p>	<p>介護能力</p>	<p>ストレス対処能力</p>
<p>両親は自分みものという 伝統的な意識</p>	<p>介護に行き詰った時にやり場 がない</p>	<p>家族は現実をなかなか受け入 れることができない</p>	<p>対応方法</p> <p>手助けの加減が難しい</p> <p>認知症だとわかっていても、ま だうまく対応できない</p> <p>火の不始末が心配</p> <p>徘徊認知症を体につけるのが難 しくて困る</p> <p>デイサービスを利用したいのに 本人が嫌がって通ってくれない</p> <p>認知症本人を連れて行くのが大 変(かかりつけ医との連携が必要)</p> <p>通院しても診察待ち・薬待ちなど の順番が待たない</p> <p>精神科・神経内科等に集いでも らうには、家族の理解がなけれ ば繋げないのでさらにサ ポートしてもら</p>	<p>自由な時間・趣味 リフレッシュ・さばらし</p> <p>ボランティアが簡単にできるよ うな仕組みがあれば家族が外 出できる</p> <p>介護をしていると何のための 自分の人生かと思ひ、自分の ために時間を使いたくないと思 う</p> <p>介護から24時間対応しなけれ ばならないため超えられる</p> <p>介護と食事に追われる生活の ためリフレッシュしたい</p> <p>接する時間が長いと優しくでき なくなる</p> <p>いつも家で一緒にいると話題 がなくなり声もかけなくなって しまう</p> <p>家族の生活が、「認知症の人 中心の生活」になってしま う</p> <p>介護者も受け止めるときに空 に受け止めてしまう</p> <p>介護している相手は認知症だ から自分も鬱っぽくなってしま う</p>
<p>親の世代はサービスがなかつた ため、大抵でも自分でみて いた</p>	<p>人生の終焉を良い状態で送る ことが義務だと思</p>	<p>相手を尊重できるようになるま でに時間がかかる</p>	<p>知 識</p>	<p>妄想があり介護の方が神経 を病む</p> <p>昼夜逆転の生活により介護者 が大変</p>
<p>サービス利用や施設に入所す ることに後ろめたさがある</p>	<p>親をがっかりさせたくない</p>	<p>相手に安心感を与えてあげる ことがなかなか難しい(自分と 相手を大切にすること)</p>	<p>入れ値の出し入れが難しい</p> <p>認知症になった人の行動に対す る応答の仕方等の事例集が欲しい</p> <p>薬の自己管理ができない</p> <p>ノウハウを持った人に対応方法 を教えて欲しい</p> <p>すぐに廃棄してしまうのでどの うにしたらいいのかわからない</p> <p>夜間のトイレの介助</p> <p>探してもらいたい時はどこに迎 接したらいいのかわからない</p> <p>認知症にどのような症状がある のか具体的に知らない</p> <p>認知症に対する予備知識が欲 しい</p> <p>赤信号を渡ってしまうので交通 事故に遭わないか心配</p>	<p>家族・親族からの支援</p> <p>組織などから何を言われるの かわからない</p> <p>家族には聞く耳を持ってもらえ ない</p> <p>何かあると介護者が集中攻撃 を受ける</p> <p>家族で助け合える環境ではな く、家族同士に思いやりのない</p> <p>家族(若い世代)の協力が得ら れない</p> <p>家族に頼れる人がいない</p>
<p>介護者自身のためにサービスを 利用することによる罪悪感</p>	<p>先が見えない、いつ終わるの かわからない</p>	<p>家族が認められない閉鎖的(情 気という認識)、家族が動かな いという実態</p>	<p>健 康</p>	<p>昼夜逆転の生活により介護者 が大変</p>
<p>介護者自身のためにサービスを 利用することによる罪悪感</p>	<p>介護中は毎日必死で余裕もな く殺意を抱くほど疲れてくる</p>	<p>病気で認知症の診断を受ける のが嫌だった。怖かった(受診 時の問題)</p>	<p>老老介護が多くなってきている ことは特別なことではない</p> <p>母の姿を通して得る自分を想 定し、怖くなる</p>	<p>家族で助け合える環境ではな く、家族同士に思いやりのない</p> <p>家族(若い世代)の協力が得ら れない</p> <p>家族に頼れる人がいない</p> <p>デイに入っていることで親戚に 「それじゃ楽だな」と言われる など、家族(親戚)の介護に対 する無理解</p> <p>姉妹も会えば労ってくれるが 実際には何もしてくれない</p> <p>専門家に介護してもらう前に必 死で部屋等をキレイにしている ので疲れる</p>
<p>介護者自身のためにサービスを 利用することによる罪悪感</p>	<p>介護に疲れて、投げ出したくな る気持ちが理解できる</p>	<p>病院で診断が出た直後これか らどうしたらいいのか心配にな った</p>	<p>在宅で見守るには着替えやト イレ等、とにかく時間がかかる</p>	<p>家族で助け合える環境ではな く、家族同士に思いやりのない</p> <p>家族(若い世代)の協力が得ら れない</p> <p>家族に頼れる人がいない</p> <p>デイに入っていることで親戚に 「それじゃ楽だな」と言われる など、家族(親戚)の介護に対 する無理解</p> <p>姉妹も会えば労ってくれるが 実際には何もしてくれない</p> <p>専門家に介護してもらう前に必 死で部屋等をキレイにしている ので疲れる</p>
<p>本人の気持ちがわからないので、 そんなつもりはないのに強 要してしまう</p>	<p>介護者のストレスや気持ちは 相手に伝わる</p>	<p>看護師の意欲や態度、周りの 人の態度が気になる</p>	<p>介護者のストレスや気持ちは 相手に伝わる</p>	<p>家族で助け合える環境ではな く、家族同士に思いやりのない</p> <p>家族(若い世代)の協力が得ら れない</p> <p>家族に頼れる人がいない</p> <p>デイに入っていることで親戚に 「それじゃ楽だな」と言われる など、家族(親戚)の介護に対 する無理解</p> <p>姉妹も会えば労ってくれるが 実際には何もしてくれない</p> <p>専門家に介護してもらう前に必 死で部屋等をキレイにしている ので疲れる</p>
<p>在宅で見守るには着替えやト イレ等、とにかく時間がかかる</p>	<p>相手が安心するためには笑顔 で接することが大切</p>	<p>認知症の人と実際に接してみ ないと大変さがわかってもらえ ない</p>	<p>介護者のストレスや気持ちは 相手に伝わる</p>	<p>家族で助け合える環境ではな く、家族同士に思いやりのない</p> <p>家族(若い世代)の協力が得ら れない</p> <p>家族に頼れる人がいない</p> <p>デイに入っていることで親戚に 「それじゃ楽だな」と言われる など、家族(親戚)の介護に対 する無理解</p> <p>姉妹も会えば労ってくれるが 実際には何もしてくれない</p> <p>専門家に介護してもらう前に必 死で部屋等をキレイにしている ので疲れる</p>

介護環境

近隣との関係

近所の偏見

まだまだ認知症を知ってもらいたい
向こう三軒両隣に挨拶し認知症を知ってもらった
認知症はまだ偏見がある
認知症＝徘徊があるので近所の人に知ってもらった
近所の人に認知症の特徴や特性・家族の状況を知ってもらおう
母親の病状を知る近所の方たちの言葉が気になるのを言われているかわからないので、様子を聞かれても「相変わらずだよ」と答えるだけになっている
認知症は年をとる事と同様であり、特別なことではないことを一般の人達に知ってもらおう
介護者が他の人に話すまでに時間がかかった
要介護者を通して介護者が見られている気がする
放逐されたらみっともなく困るなど、先の先まで考えて悩んだみっともない、近所に頼めない(午前2時など)
認知症に対するお店の方などの理解
認知症の人には気を遣うのに介護者には気を遣わない
認知症に対する嫌感を無くしたい
徘徊時の要介護者の情報が欲しい
近所の人にアルツハイマーだとは言えなかった
夜徘徊するので近所の人には頼めない
手元に置けない、取っかきがある
認知症は他の人に迷惑をかけるため、心を痛める・取っかきしい
近所に知られたくない
病氣だから周りの人に気を遣わなくてもいいのに気遣いして渡れる

近所の人にサポートしてもらおう

近所の人や昔から付き合いのある人に見守りに来てもらいたい
二人暮らしで淋しく自分に何かあったらと思うと心配なため、近所の顔見知りや信用のおける人に声かけ/コントロールのようなものを求めている

インフォーマルな活用(助け合い)

介護サービスは緊急時使えない
施設の早急の対応が難しい
ノウハウを持って引退してしまっただけの人が活躍できる場所が欲しい
朝6時から9時、夜間17時から22時といった時間に介護サービスの利用がしたい
葬儀等の緊急時に預かってもらえる所がない

施設・事業所

【介護職種スキルアップ】

CMには家族の声に耳を傾け最良の方法を提案して欲しい
認知症の周辺症状を助長するような介護者がいる
ヘルパーがしっかり認知症を理解していないなど能力不足
CMの変更は都合では当たり前だが富士宮ではCM同士が立場を守りあうため変更を拒否することがある
ヘルパーにその人の性格に合った介護してもらえない
介護保険サービスと希望するサービスが合わない
訪問調査員のレベルの均等化、家族への接し方
介護申請をしてから認定までの期間に介護者に的確なアドバイスが欲しかった
CMの不親切な対応で相談できないため質の向上を要望
介護サービスは金額に見合った質の向上を要望
【施設対応】
刻み食と常食が同部屋で食事する等の施設側のリスクに対する意識
施設(ショートステイ)でも断られた
施設で徘徊のある人が薬(精神安定剤)をのまされることは身体拘束である
施設の家族に対する説明責任への不満(事故対応)

社会資源

さくら会

介護保険の使い方等さくら会に入会し、会長からのアドバイスで手続きできた
さくら会について会員の家族から情報提供してもらった
知識を学ぶ所として「さくら会」がある
症状は十人十色、対応方法がわからない・難しい
ケアマネの評判など介護事業所の状況を知りたい
介護保険について大体の事は理解できても詳細については利用しないとわからない
家族から孤立しているため他人の力を借りる
在宅介護者同士で話したい
話を聞いてもらいたい、相談したい
家族のストレスを吐き出す場所がない

民生委員

民生委員(地域)の支援が得られない
民生委員は地域で適任者を選び、人それぞれの配りをもっと欲しい
市や地区単位で一人暮らしや老老介護宅を把握して欲しい
民生委員は男性が多く家庭の中に入りづらい(さくら会に対応してもらおう方法もある)

金融機関

認知症本人による銀行での行為は困難(署名、カードの間違い、遺失カードの紛失)
郵便局では代理人の手続きを行い大変だったが引き落としすることができた
金融機関では本人を連れて行かないと対応してもらえないが、訳がわからない本人を連れて行くのは大変

病院

【医師とのコミュニケーション】

認知症は治療が大変、本人に聞いてもわからない/かかりつけ医・家族・CMの情報共有)
便秘によって症状が悪くなることあるのを知らなかつた/かかりつけ医・CMの情報共有)
整形外科が内科の薬を出すことは副作用の問題がないのか不安になる(整形外科のDr.によく聞く)
認知症の初期の段階では、かかりつけ医が見抜くのは難しいという事実を受け入れてもらう
介護保険や申請について、かかりつけ医から情報提供して欲しい
かかりつけ医から精神科・神経内科等に繋いで欲しい
【対応・理解】
認知症の人は騒いで迷惑をかけるため申し訳ない思い(個室へ入所(受容))
認知症以外の病気で入院が大変
市立病院では24時間の付き添いが求められた

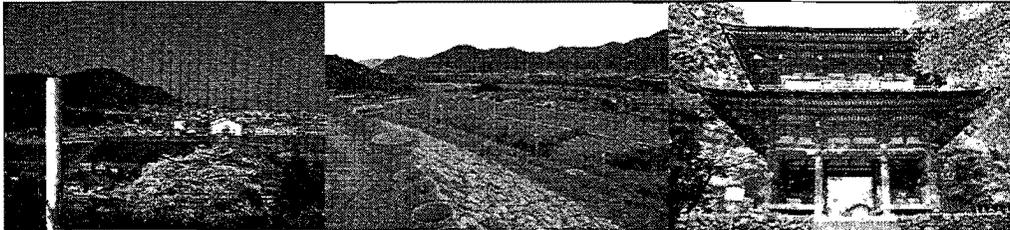
【介護従事者待遇改善】

介護職の労働条件を良くして欲しい
施設職員の環境を良くして欲しい

行政

【制度】

慣れた看護士や介護士の介護は素晴らしい利用者や落ちつき笑顔のひと時があるため人材を大切に欲しい
ヘルパーの人員不足により十分なケアが得られない
介護保険についてわからない点が多い
CMの手続きが難しい
介護保険のサービスは元気な人が使うものであると勘違いしている人がいる
施設について夢中で聞いて歩いた
認知症サポーターと言っても実際に接してみないと行動を理解できないと思う
自分が使えるサービスにどんなものがあるのかわからない
申請の仕方さえわからない
グループホームや老人病院などは治療費・入所費等が高額で困っている家族がいる
【市要望】
紙おむつ支給サービスでメーカーを選択できるようにして欲しい
介護認定までに時間がかかり認定延期の理由が「不十分である介護申請から認定の通知が来るまで3ヶ月以上かかり認定延期の理由が「認定審査会協議のため」と言われたことがある
ゴミ回収が休みの時はオムツが溜まって困る(週間家に置く事もある)
在宅介護に介護サービスが有効なことが周知されていない(PR不足)
近くの病院に入院させたいが空きがある病院は遠い
高齢者を預かるような施設が欲しい



2012.3.6 認知症地域支援体制普及セミナー

みんなに

い**ば****し****よ** **があるまちをめざして**

ろ
ん
な

め
ん
に

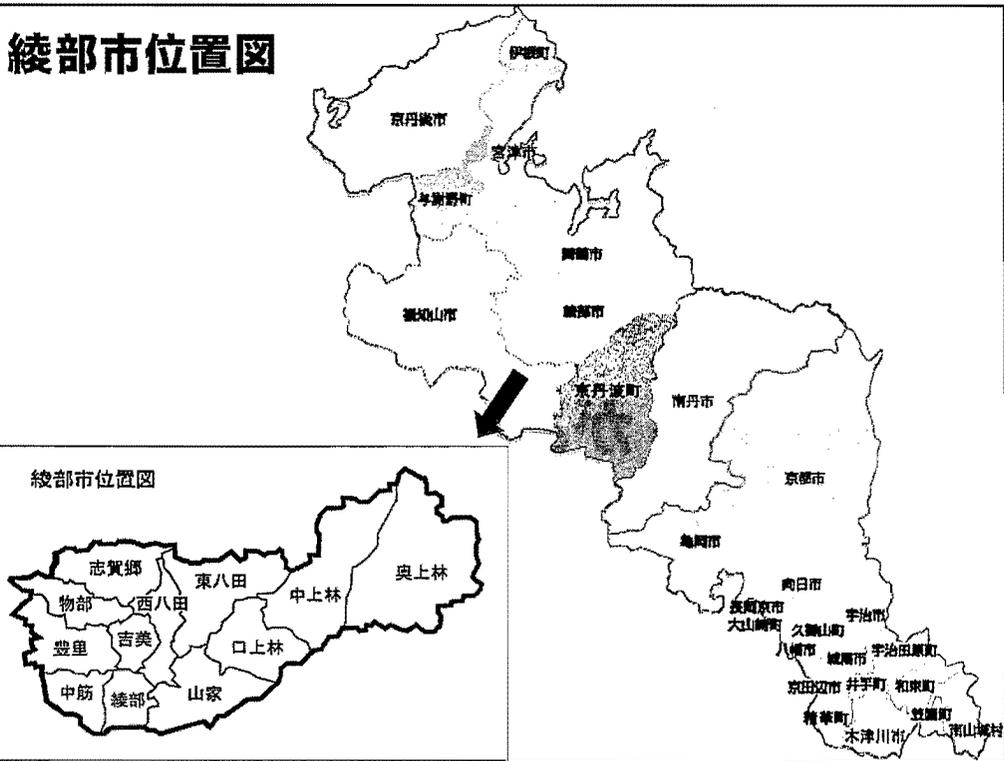
あ
わ
せ
と

ろ
こ
び



社会福祉法人 綾部市社会福祉協議会 山下宣和

綾部市の概要



綾部市の概要

1.世界連邦都市宣言(昭和25年10月14日)

日本国憲法を貫く平和精神に基づいて世界連邦建設の趣旨を賛し、全地球の人々とともに永久平和確立に邁進することを宣言(全国の自治体に先駆けて宣言)

2.綾部市市民憲章(昭和49年11月1日)

- 平和を願い、祈りのあるまちにしよう
- 自治を高め、心のつながりのあるまちにしよう
- 教育をたいせつにし、文化のかおるまちにしよう
- 環境をととのえ、健康のあふれるまちにしよう
- 産業をおこし、豊かな暮らしのあるまちにしよう
- 計画を定め、輝かしいあしたをひらくまちにしよう

3.水源の里条例(平成19年4月)

綾部市が全国に先駆け、いわゆる“限界集落”の活性化をめざす条例を施行。集落での定住や特産品開発などを支援

綾部市の認知症高齢者

- 人口 36,965人
- 65歳以上 11,895人
- 高齢化率 32.2%
- 要介護認定者比率 19.7%
- 認知症高齢者数(Ⅱ以上) 1,222人※
(地域包括支援センターは市直営で1ヶ所、ブランチが4ヶ所)

平成23年3月末現在
※平成20年11月現在

5

綾部市社会福祉協議会の概要

綾部市社会福祉協議会の変遷

- 昭和27年9月1日発足
- 家庭奉仕員制度発足(昭和44年)
- 昭和45年4月社会福祉法人認可
- ふるさと綾部の老人を守る会発足(昭和46年)
- へき地過疎地住民福祉委員会設置(昭和48年～平成23年)
- 浴槽車派遣事業開始(昭和54年)
- ボラントピア事業指定(平成3年)
- ふれあいのまちづくり事業指定(平成6年)
- 介護保険サービス事業開始(平成12年)
- 地域福祉活動計画策定(平成15年)
- 地域福祉権利擁護事業基幹的社協受託(平成16年)
- 高齢者見守り隊事業実施(平成18年)
- 第2次地域福祉活動計画、基盤強化計画を策定(平成20年)
- 生活・介護支援サポーター養成講座を受託実施(平成21年)
- 認知症地域支援体制構築モデル事業を受託実施(平成22年)
- センター方式地域型基礎研修を開催(平成22年)

地域福祉活動計画とは

- 少子高齢化が進むなか、誰もが安心して暮らすことができる地域社会づくりをめざし、今後取り組むべき地域の生活課題を明確にし、住民が主体的に参加・参画して取り組む、地域の生活課題に応じた解決への指針
- 平成21年から平成26年までの6カ年を計画期間

地域福祉の目標(平成21年度～)

みんなに

いばしよがあるまち綾部

ろ め あ ろ
ん ん わ こ
な に に せ と
び

9

綾部市社会福祉協議会の経営理念

「あやべに住まいする全員が、人間の尊厳をもって生きていけるよう支えあいの心を核に福祉事業を推進します。」

10

経営ビジョンと重点目標

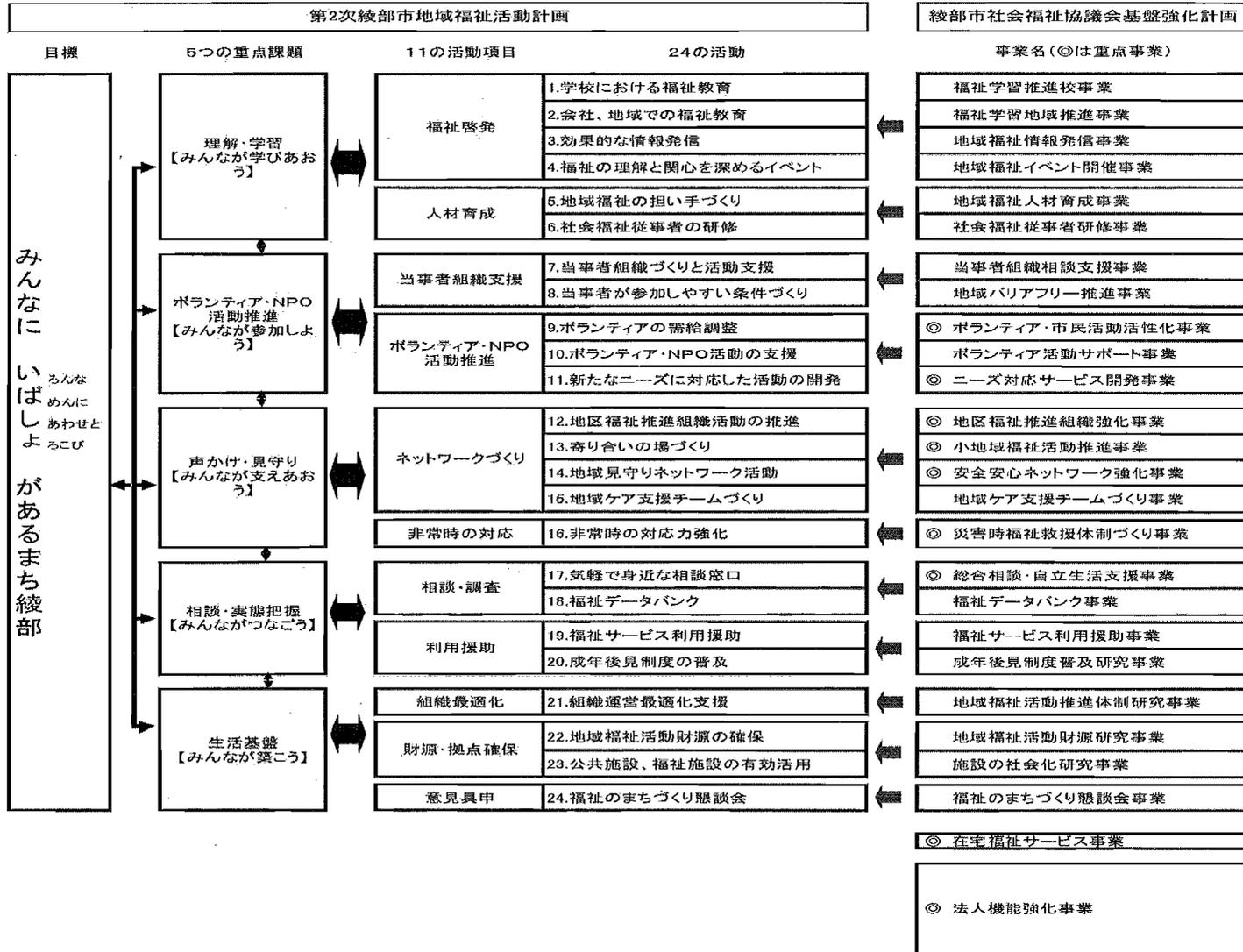
○経営ビジョン

一人ひとりの「いばしょ」をともに創る社協

～わかりあえる つながりあえる ささえあえる～

○重点目標

- 新たな共助の仕組み「綾部の型」をつくる
- 寄り添い あきらめず チームで応える 福祉サービスの提供と開発を進める



地域ケアをすすめる上での視点

- 本人、家族の暮らしに着目すること
- 本人、家族の暮らす地域(環境)に着目すること

この、2つの視点をもつことが地域ケアをすすめる上で欠かせない

綾部での実践事例の紹介

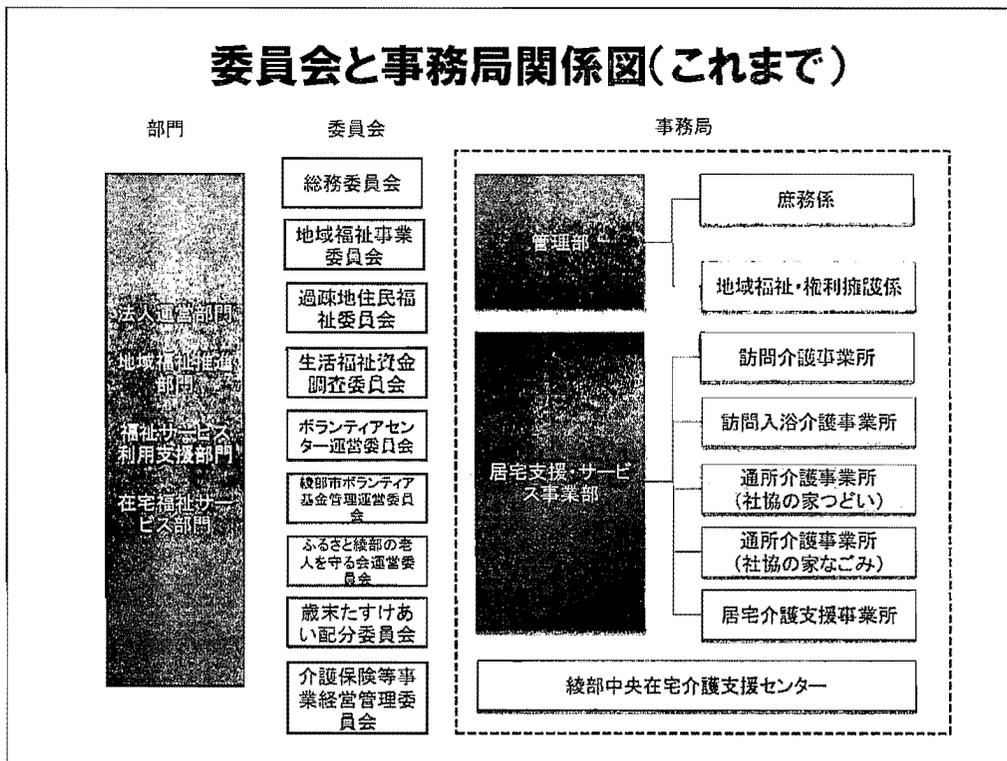
①推進体制づくり

何をするにもまずは構えが大切です

推進体制づくり(法人内)

- 組織の中での位置づけを明確に
本人支援⇒福祉サービス利用支援部門
在宅福祉サービス部門
地域支援⇒地域福祉推進部門
- 職場内の情報共有とサポート体制
認知症地域支援プロジェクト、役職員向け
ニュースレター『月刊社協NEWS』

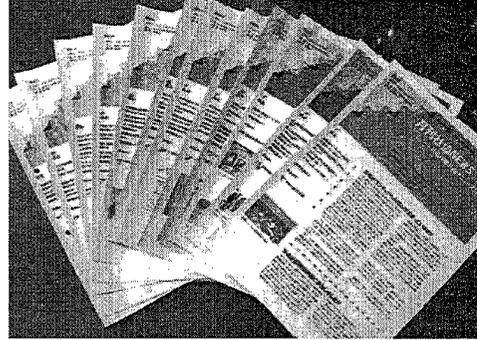
委員会と事務局関係図(これまで)



部会と事務局関係図(2010. 6月以降)



推進体制づくり



理事による部会・委員会で検討し、必要に応じてテーマ別に係・事業所横断型のプロジェクトチームを組織。その活動は、毎月発行の役職員向けニュースレター『月刊社協NEWS』などを活用し情報発信をしています。

推進体制づくり

- **綾部市地域ケア会議(全市レベル)**
事例検討、認知症サポート医との連携
- **重点地域の福祉推進組織(地区レベル)**
地域の状況の把握、ニーズ(課題)のすりあわせ、計画づくり
- **綾部市地域包括支援センターとのミーティング(担当レベル)**
地域の状況の把握、ニーズ(課題)のすりあわせ、計画づくり、役割分担

②相談・実態把握

認知症の人や家族の暮らしのニーズ(課題)を明らかにする



認知症の人と家族の実態調査

- 「認知症の人」「介護家族」を対象にした聞き取り調査を重点地域に絞って実施
- 聞き取り調査は介護支援専門員に依頼。
- 調査票は、重点地域の住民福祉組織と地域ケア会議メンバー(地域包括支援センター、在宅介護支援センター等)と認知症サポート医で整理。

不安は、ひとり暮らしをしているから夜が心配。ちと身体がしんどくなったときにこまるなあと思う。ひとりしていると、いつ、どこがしんどくなっても助けてもらえる人がない。

したいことが思うようにできない

どことなくえらい。どうにも身体があかん。頭がいんでしもとるでわからん。

わけがわからない。思いだせない。まわりからボケといわれる。子どもとの生活で負担ばかりかけた。一緒にいるとけんかばかりしてしまう。もう治らないならどうにかなれと思う。

近所の人もおおぜい亡くなっちゃったり、娘のところへ行っちゃったりで、話す人もいない。だあれも来んし、息子も私にも何にも話してくれへんし。



本人の声

わけの分からんことをペラペラしゃべって付き合いきれない。これがいつまで続くのかと思うと不安でしかたない。

人のうわさ。介護しているのにあずけていることが何か悪いように見られてないかと不安感をもつ

近所の人とはとても理解があるのでいつでも協力的

家と施設がより身近に感じれるようなとりくみがある。地域の理解

今以上に認知症が進み、徘徊や便まみれ、よそのお宅の畑を荒らしたり等迷惑行為をしたら、どうしよう...



介護家族の声

認知症を介護する家族の思い、大変さがなかなかまわりに伝わりにくい。

隣近所の人が、独居であっても、認知症があっても住みなれた地域・家で支えてあげようという気持ち。ヘルパー訪問以外にも安否確認をしてもらえるサービス、仕組み。

介護者が堂々とリフレッシュできる環境づくり 年に数回の企画はあるが... いつでも行ける介護者用のサロンなどあればどうでしょう？

介護者は支援を多くは望まれていないが、少しの時間出かけるときに、知った顔の人が本人と一緒に話をしたり、過ごして頂けるようなことができればと思う。

家族が安心して休息できる環境の充実が必要。さらに認知症の理解を深めるための取り組みを。



介護支援専門員の声



介護者家族教室



介護家族の「学びと交流」の場として平成22年6月から毎月1回市と社協が共催で実施しています。正しい介護知識を学び、家族交流のときは、日ごろのモヤモヤを言い合える場になっています。運営には、ゴールドサポーターも協力しています。

③理解・学習

3種の住民サポーターと従事者向け
研修で仲間づくりをすすめています

認知症サポーターとシルバーサポーター、 ゴールドサポーター

講師:キャラバン メイト 内容:標準教材 時間:30~60分	講師:社協職員 内容:社協オリ ジナル教材 時間:30~60分	講師:専門職等 内容:対人援助、社会資源、事 例検討など 時間:20時間
---	--	---



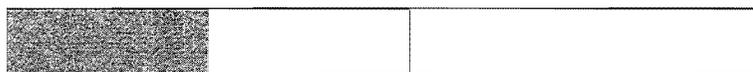
認知症サ
ポーター



シルバー
サポ
ーター



ゴールド
サポ
ーター



(生活・介護支援サポーター)

第2次綾部市地域福祉活動計画で位置づけ



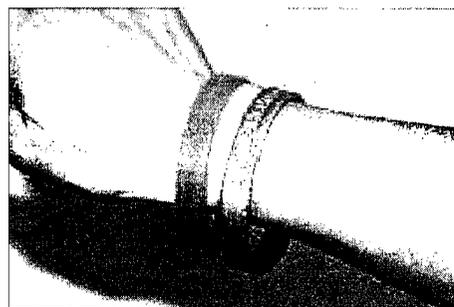
認知症サポーター



ほとんどが出前の依頼を受けて出張による講座を開催しています。重点地域のリーダーに「伝えたいこと」をまず聞いてもらい、所属組織で講座開催を具体化してもらう方法が効果的！キャラバンメイトは、79名が登録。



シルバーサポーター



認知症の人だけでなく一人暮らしの高齢者など高齢者福祉の全般の理解をすすめるため、本市の状況、自立、老化に伴う心身の変化、相談窓口の紹介などを伝え、修了者にはオリジナルのリングを進呈しています。



受講カード

シルバー（認知症）サポーター講座
受講カード

記入日： 平成 年 月 日

フリガナ	
氏名	
住所	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
性別	男 / 女
生年月日	大正 昭和 平成 年 月 日生（歳）
職業	会社員 公務員 自営業 農林業 学生 無職 その他（ ）
家族の動機	

■ 色んな生活上の心配ごとを抱えた高齢者に対し、話し相手やちょっとした家の片付け、生きがいづくりのための支援など、随分支援の手を貸していただきたいという場合、ご支援の依頼（もちろん、あなたの都合がつくとき、できる範囲で軽微です。強制ではありません）をさせていただくことについて

同意する 同意しない

※同意するとお答えいただいた方は次の項目にもお答えください

主な移動手段	自家用車 / バイク / 自転車 / 徒歩
特技・趣味	

※この受講カードに記載された個人情報は、綾部市社会福祉協議会が適正に管理し、シルバー（認知症）サポーター養成の適正かつ円滑な実施の目的に利用させていただきます。

社会福祉法人 綾部市社会福祉協議会

- 講座を受講いただいた方には受講カードを記入いただき、リングと引き換えにしています
- 受講カードは綾部市社会福祉協議会が適正に管理し、受講者の把握と、継続した情報提供、フォローアップ研修のお知らせなどを行っています。
- 地域ボランティアとして支援の依頼をすることについての同意欄も設けています。



ハッピーカード

ハッピーカード2010

シルバー（認知症）サポーターとして、高齢者など人の困窮の解消に、心から応援ができて、こんなことがありたいという気持ちを記入してください。あなたの気持ちを今後の活動に活かしていただくと嬉しいです。このカードは必ずお持ち帰りください。

活動内容

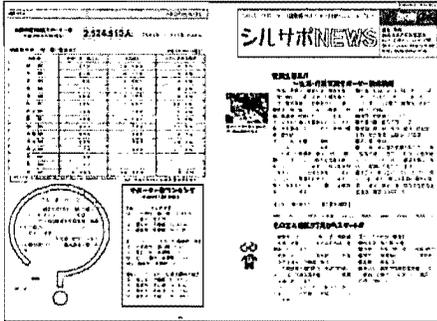
日	活動内容	メモ
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		

社会福祉法人 綾部市社会福祉協議会

- サポーターとして、高齢者の方とのエピソードを記録するものです。
- これにより、サポーターのみなさんが地域の中で支えになっている事例を集めることをねらいとしています。
- 年度末にカードを回収するようにお願いをしています。



認知症・シルバーサポーターの フォローアップ

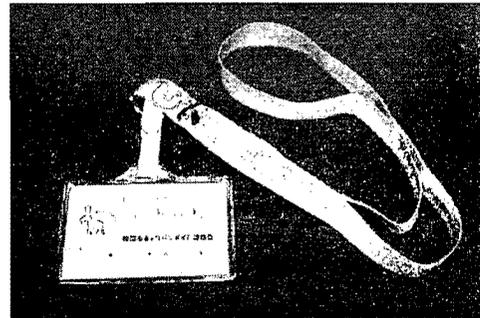


『シルサポNEWS』は年2回発行し、身近な情報をまとめ受講
修了者に配布しています。

「フォローアップ研修」は毎回テーマを変えて学びの機会を提
供しています。



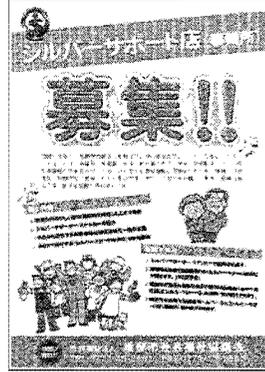
キャラバン・メイト連絡会



キャラバンメイト連絡会は、平成21年1月に発足。事務局は綾
部市社会福祉協議会が担っています。年2回、会議をもち、ネタ
を出し合ったり、研修をしたりと楽しく集まっています。情報発信
ツール「あやキャラメール」を立ち上げました。



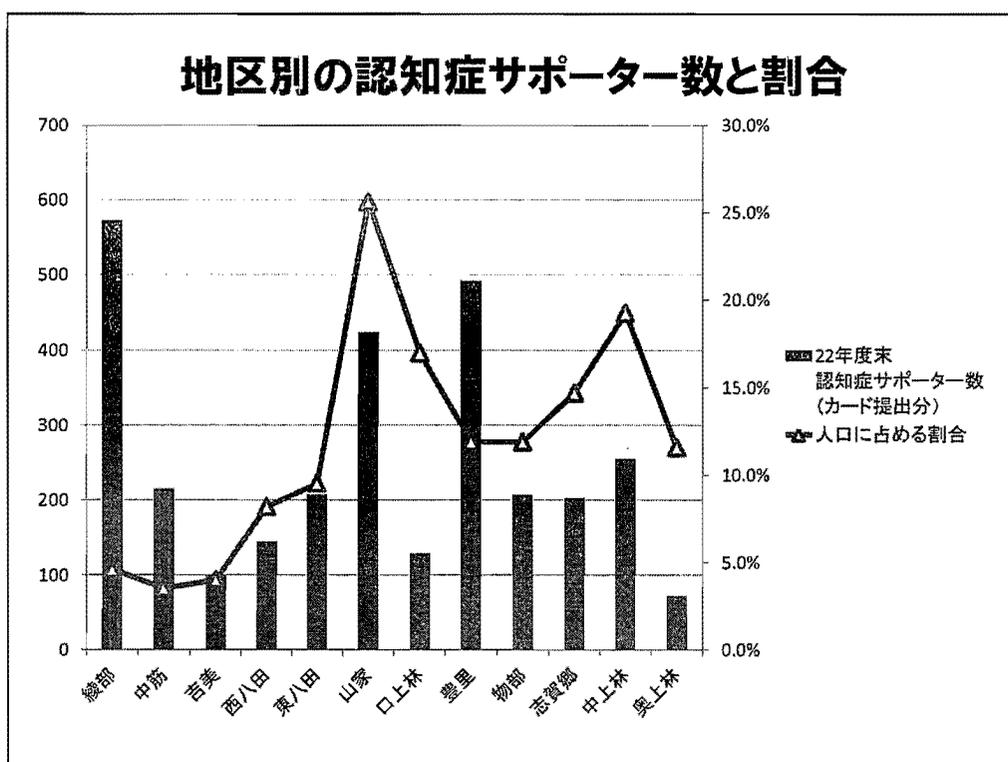
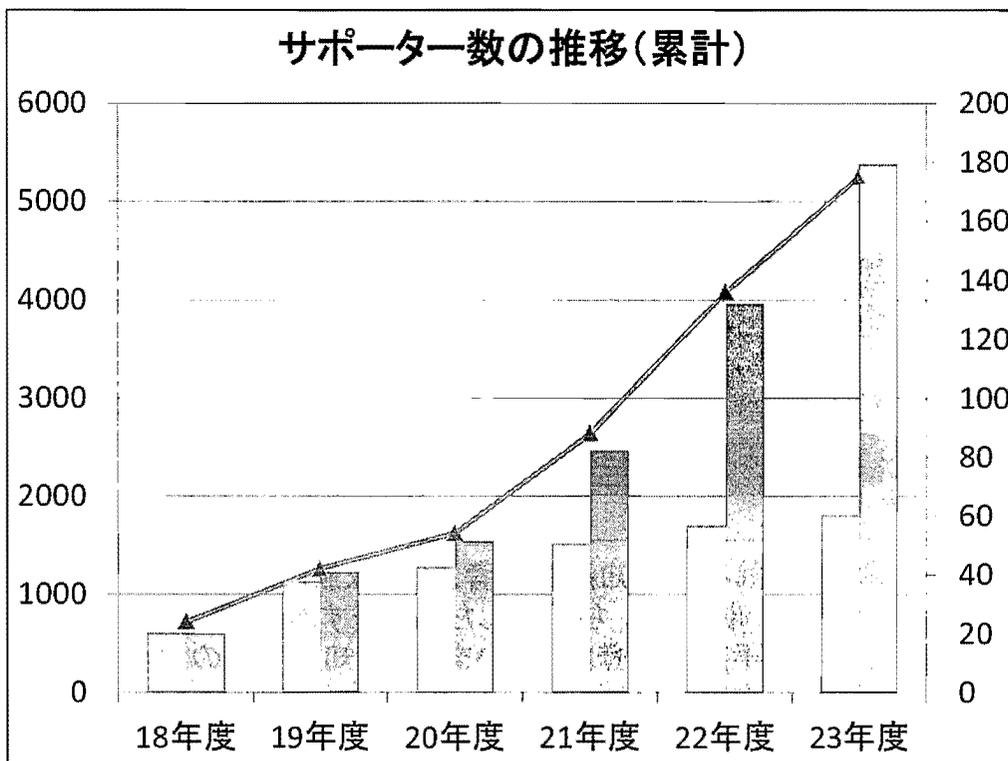
シルバーサポート店(事業所)



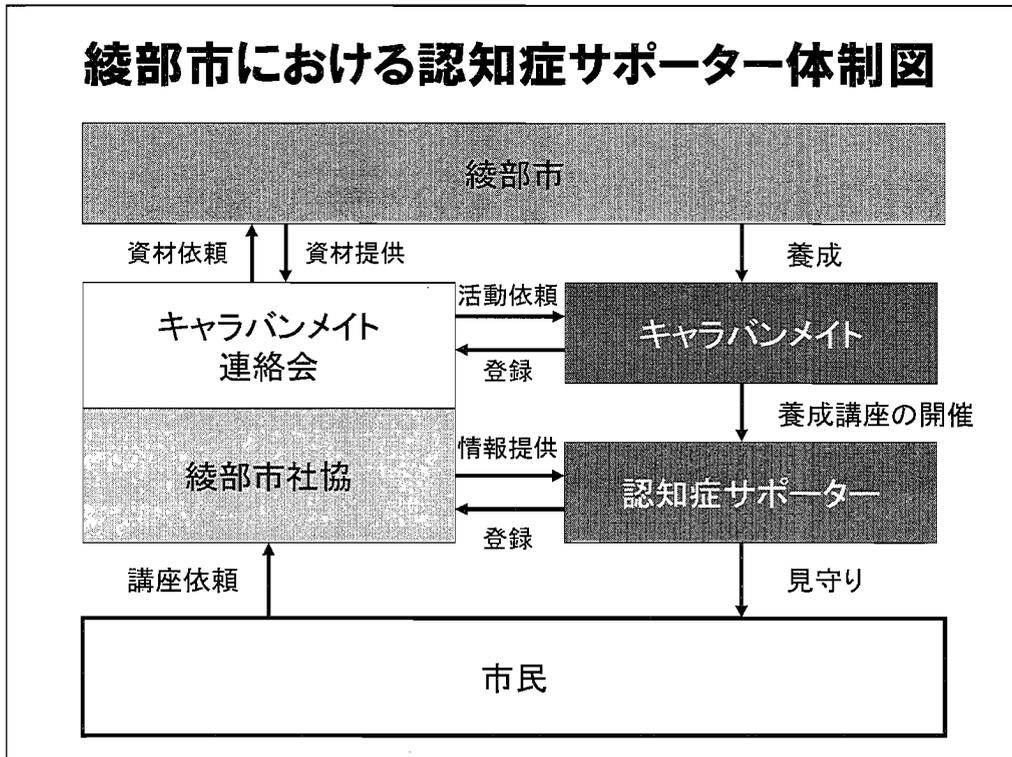
一人暮らし高齢者や認知症高齢者、その家族に対して必要なときに手をさし伸べたり、ちょっとした応援をする店(事業所)です。現在、57事業所が登録しています。認知症本人の散歩時の見守りに協力をしていただいている例もあります。

綾部市における 認知症サポーターキャラバン実施状況





綾部市における認知症サポーター体制図



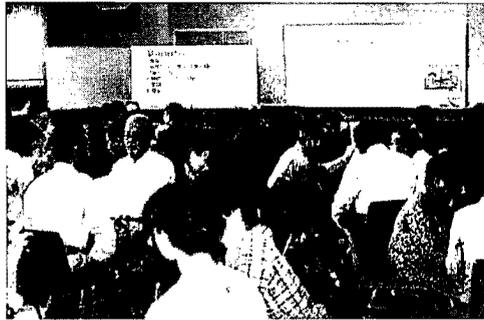
ゴールド・サポーター



平成21年度にはじまった「生活・介護支援サポーター養成事業」を市から委託を受けて実施。認知症・シルバーサポーターの上位に位置付け、受講時間は20時間。199名が受講修了しました。新たな地域福祉の担い手として広がってきています。



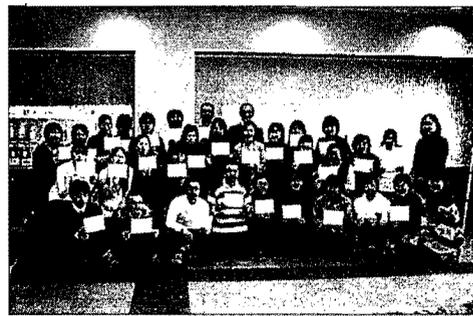
ゴールドサポーター・フォローアップ



受講修了者を対象に、傾聴ボランティア、介護予防普及などに向けての研修をおこなっています。ゴールドサポーターのための情報紙『Gサポ通信』で情報発信もおこなっています。



センター方式地域型基礎研修



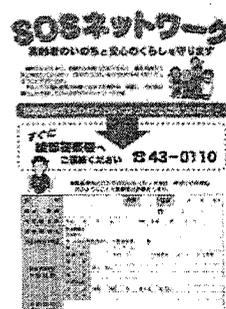
市内の福祉施設や病院に勤務する人やケアマネジャーを対象にセンター方式の理解をすすめ、本人本位のケアの視点を深めます。他職種と顔が見える関係づくりにも発展しています。30名が受講修了し、年に3、4回集まって研修をしています。

④ みんなが参加しさえあおう

学びから実践へ。住民の活動を見守り、サポート。「つなげる」ことが大切です。



まち歩き声かけ体験 (徘徊対応模擬訓練)



「高齢者の行方がわからんようになったとき、(自治会長も)大変や!」の声から、自治会長が本気モードに!! 模擬訓練の開催や「SOSネットワークのリーフレット」「ネーム札」の作成に至っています。

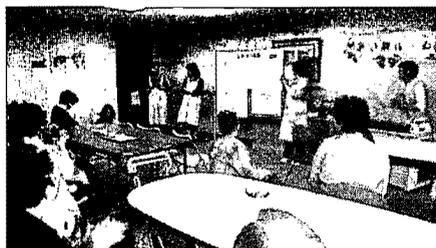
住民が動く



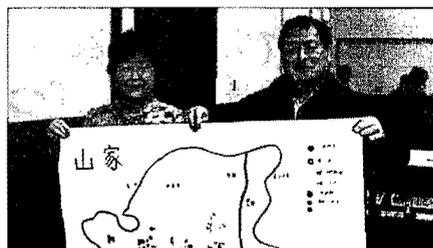
傾聴ボランティアがお話し相手に



老人クラブとして認知症予防を学ぶ



子どもと高齢者のサロンがスタート



自分たちの暮らすまちの資源を点検

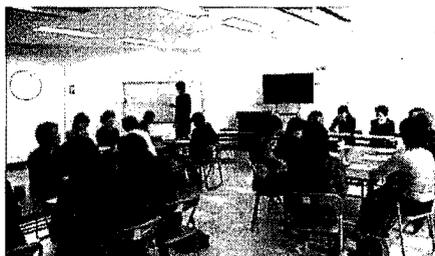
専門職・関係者が動く



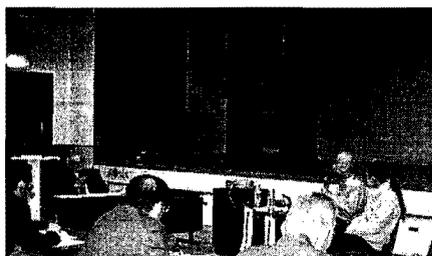
広域徘徊対応模擬訓練



認知症サポート医との連携



日常生活自立支援事業の生活支援員



一年の活動の振り返るセミナー

⑤そして、今…

認知症の人など判断能力に不安のある人の自己決定を支える仕組みの弱さが明らかに。

成年後見制度の普及に向けて

成年後見制度研究プロジェクト
成年後見制度に関するアンケート調査

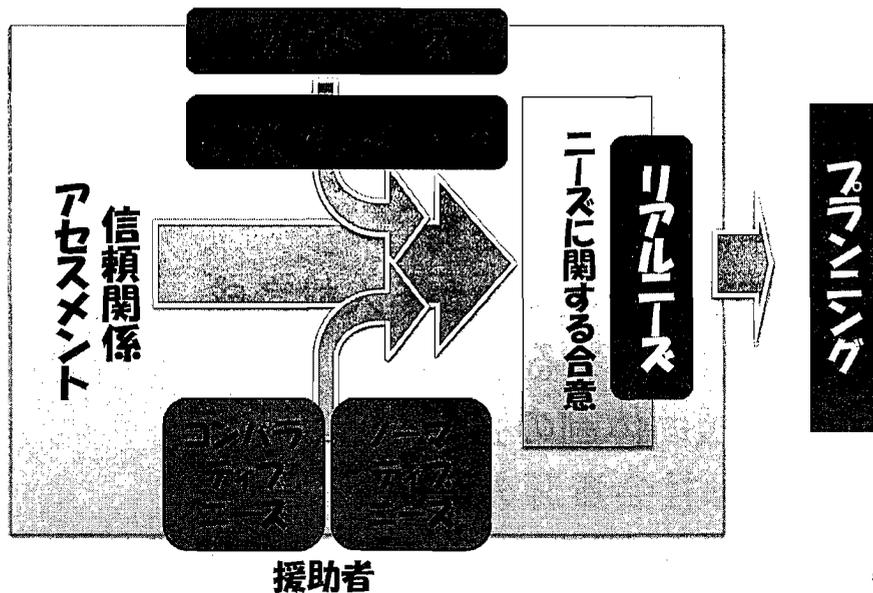


- 成年後見制度の啓発
- 成年後見制度にかかる人材育成
- 関係者の集まる場づくり
- 相談援助体制の強化
- 新たな社会資源の開発
⇒社協による法人後見受任体制づくり

大切にしていること、
大切にしたいこと

ニーズに関する合意

本人・家族・地域住民



50

大切にしていること、大切にしたいこと

- 実態を把握し、課題(ニーズ)をチームで明らかにすること
- チームで目標を共有し、計画をたてること
- 計画に基づいてチームで動いてみること
- 動いた結果どうだったかをチームで確認すること
- 上手くいった理由、上手くいかなかった理由をチームで考えること